

OB 通信

鳳 翩

= 2025年 12月号 =



【今回 OB 総会前後で憩いの場となった海の家】

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
鳳翩会

もくじ

				ページ
1	会長挨拶	鳳翔会会長	田村 伊正	1
2	会長就任にあたって	鳳翔会副会長	三國 彰	2
3	総会報告	鳳翔会副会長	三國 彰	3
4	OB 総会報告	山口支部 支部長	坂田 信一	10
5	支部報告			
	東京支部 活動報告	東京支部 事務局長	小関 哲哉	13
	関西支部 活動報告	関西支部 支部長	池田 純	14
	山口支部 活動報告	山口支部 支部長	坂田 信一	15
	九州支部 活動報告	九州支部 支部長	堀 剛	16
6	現役報告	人文学部 4年	緒方 若菜	18
7	同期会だより 半世紀ぶりの同期会開催	山口支部 S52 経済	古谷 眞之助	19
8	近況報告			
	人生 旅鳥 今 博多	九州支部 S58 経済	泉谷 幸児	20
	諏訪峡散策と伊香保温泉観光	東京支部 S47 文理	恵谷 浩	21
	長野浅芳君の訃報に接して	東京支部 S44 農	原 具寛	22
	萩開催鳳翔会に参加して	関西支部 S51 工	池田 純	23
	私の近況報告	山口支部 S47 文理	野村（内田）英昭	24
	ケニアで迎えた古希	関西支部 S53 教育	森 裕子	25
	東京支部 秋の山行「飯能アルプス」	東京支部 S51 工	小林 照明	28
	81歳を迎えての雑感	東京支部 S42 経済	吉永 哲也	30
9	自由テーマ			
	“長老”と呼ばれたワングルOB 鳳翔会総会	九州支部 S41 文理	加藤 征治	31
	3年振りの富士山登頂	東京支部 S47 文理	恵谷 浩	32
	くまがこわい！	東京支部 S55 工	小関 哲哉	33
	懐かしの故郷、観光の街・尾道	東京支部 S47 文理	恵谷 浩	34
	秋の大旅行 道後温泉、湯田温泉、萩の街	東京支部 S47 工	福永 俊美	35
	犬の虐待、猫の虐待	山口支部 S52 文理	村上 文明	40
	再び車窓より	関西支部 S48 経済	上田 功	41
	ワングルOB会礼賛	東京支部 S48 経済	森本 直重	42
10	OBの皆さまへのお願い	副会長 S55 工	三國 彰	43
11	2025年度本部・支部役員連絡先 編集後記	会長 S53 工 副会長 S57 工	田村 伊正 田原 宏	44 44

1. 会長挨拶

鳳翔会 会長 S53年 工学部卒 田村 伊正

年の瀬を迎え、何かと忙しい時期になりましたが、鳳翔会の会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、鳳翔会の運営への多大なご支援とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

2022年に古谷前会長から鳳翔会の運営を引き継ぎ、今年12月で漸く4年の任期を終えることができそうです。4年間を振り返りますと、多くの挑戦と学びに恵まれた貴重な経験をさせていただきました。

社会環境に大きな変革と負担を強いコロナ禍での会の運営、活動会員の高齢化と員数の減少、本部のみならず支部の組織運営の脆弱化、会費収入に対する支出の増大化、等の様々な課題が同時に提起されました。

幸いにも、本部支部の役員の方々のみならず多くの会員の皆様に危機感を共有していただき、ご助言とご協力を賜りながら今日を迎えることができますことに、改めて皆様には厚くお礼と感謝を申し上げます。

特に、支部引き受けで開催される総会につきましては、九州支部の龍支部長のご英断により、延期の続いた湯布院での総会を開催できたことで、支部持ち回りによる総会の開催に向けた取り組みが再開できました。現役生も部活に戸惑う中、OB会への親しみも増す良い機会にもなりました。

続く関西支部も、池田支部長の意を決したリーダーシップにより、入念なご準備を頂き総会を繋ぐことができました。順調に引き継がれた東京支部では、支部の皆さんが一丸となって、参加興味が増すように運営方法や日程を工夫を加えていただき、参加費の低減に向けても改善していただきました。

今年は山口県萩市の「萩焼の宿 千春楽」での開催となりました。坂田支部長が実行委員長として綿密な計画とITの活用による経費削減にとりくまれ、現役の参画型支援も盛りこみながら約70名の参加を得て盛大に開催されました。お世話頂いた山口支部の皆様と現役学生の皆様には大変なご苦労ご負担をおかけしましたが、無事に会員の親睦を深めることができ誠にありがとうございました。私の出身地が萩市でもあり、多くの皆様に萩観光も併せて楽しんで頂いたことは、私の良き思い出となりました。感謝に堪えません。

このように各支部が各地で開催される総会が、新たな工夫により改善を重ねる姿勢で取り組まれるのは、先輩から後輩へと培ってきたワンダーフォーゲル部の神髄と捉えてなりません。

この度の総会では、来年からの2026～2027年度の新会長として現在副会長の三國 彰さんが選出され、承認されました。現副会長の三國さんは、本部の役員として長く運営に関わり、特に経費の削減に取り組んでこられました。リーダーとして覚悟も備わり、優れたバランス感覚に期待は高まりますが、会員の皆様には引き続き次期会長へのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

来年は平穏な年であってほしいと願っております。皆様には良いお年をお迎えされますようご祈念致します。



2. 会長就任にあたって

鳳翔会 副会長 S55 年 工学部卒 三國 彰

本年の鳳翔会総会に先立って行われました会長選考会において、私・三國が次期会長に推薦されました。そして山口支部主催で開催されました総会におきまして皆様のご賛同を賜り、正式に次期会長としてご承認いただきました。2026 年より 2 年間、会長職をお引き受けすることとなりましたことをご報告申し上げます。歴史ある山口大学ワンダーフォーゲル部の 鳳翔会の会長に就任できますことは、誠に光栄であるとともに、その責任の重さを深く感じております。

さて今年度は、OB 通信夏号の印刷物の発送を取りやめ、ホームページの活用促進等による経費削減策を実施しました。今後も状況を見ながら、ネットの活用など効率的な会の運営をさらに推し進めてまいりたいと思います。総会も山口県萩市「萩焼の宿 千春楽」において無事に開催することができました。多くの皆様にご参加いただき、おかげ様で大変盛況にて開催することができました。心より感謝申し上げます。

近年、ワンダーフォーゲル部の部員数は増加し、活動も非常に活発になっております。今回の総会においても、多くの学生に協力していただきました。今後も学生支援や「海の家」での活動支援等を通じて、学生の活動がより一層活発になるよう努めてまいります。

これまでと同様に、「会員相互の親睦」と「山口大学ワンダーフォーゲル部の発展に寄与する」という二つの目的を達成するべく、この 2 年間、執行部一同、地道に取り組んでいく所存です。我々の活動が少しでもワンダーフォーゲル部の発展に寄与できたらと思っています。

皆様方には、より一層のご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



3. 総会報告

鳳凰会 副会長 S55 年 工学部卒 三國 彰

令和7年度 YUWVOB 会（鳳凰会）総会が、下記のとおり開催されましたのでご報告します。

- 1 日時 2025年10月25日（金）～26日（土）
- 2 場所 「萩焼の宿「千春楽」 山口県萩市堀内菊ヶ浜 467-2
- 3 議事

今年度総会においては以下のような議案が提出され、討議の結果、それぞれの議案は賛成多数により承認されました。

第1号議案 2024年度事業状況報告および会計決算報告と監査報告

令和6年度（2024 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日）の事業報告について三國副会長から以下の報告があった。

コロナ規制緩和により、昨年度に引き続き、今年度も総会の開催が可能となりました。東京支部の皆様の用意周到な準備、皆様のご協力のおかげで無事総会を実施することができました。また OB 通信も2回発行することができました。

(1) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

- 1) コロナ渦で中止されていた卒部生歓送会（追いコンに合流；3月5日）を5年ぶりに実施し、卒部生に記念品を贈呈
- 2) 現役支援金（装備費や活動援助金として）の授与

(2) 役員会等の開催

- 1) 2023年度会計監査 2024年2月10日に実施 監査役：日野耕二、平野展康
- 2) 本部・山口支部会議（3月5日 卒部生歓送会前に実施 会誌、総会についての打ち合わせを行った。

(3) 2024年総会を東京支部で実施

1) 総会

日時 2024年10月25日（土）～26日（日）
場所 「清流の宿 おくたま路」 東京都青梅市二俣尾 2-371
(<https://www.tokyo-okutamaji.jp/>)
参加者 57名

(1) 総会における支援

- 1) 総会支援金の進呈
- 2) 現役への総会参加要請および参加支援

(2) 「OB通信（会誌）の発行

- 1) 8月号の発刊（8月10日に発送）、OB 会計の予算削減についての協議
- 2) 12月号の発刊

(3) 山口大学ワンダーフォーゲル部の活動に対する支援

学生の活動も活発化してきています。合宿（8月に2パーティ計画）他の活動に加え、7、8月に2回の海浜合宿も開催されました。活発化してきている学生への支援を行いました。

- 1) 海浜合宿の支援（海浜合宿支援金の授与）

- 2) 支部活動への参加要請、交流促進

続いて2024年度会計決算報告および会計監査報告について斎藤幹事より報告があった。

【2024年度会計決算報告および会計監査報告】

まず、令和6年度収支計算書についてご報告いたします。収支決算書をご参照ください。2024年入金会費29,000円と2024年預り金会費振替326,000円、収入の部合計は355,000円です。今年度も追いコンを開催、卒部生に記念品を渡しています。支出の部はOB通信関連経費（8月号、12月号）、総会費用、その他の経費で合計535,954円となります。従って2023年収支はマイナス180,954円となります。前年度繰り越し剰余金は583,792円であり、当年収支により翌年度繰り越し金は402,838円 になります。

収支計算書（2024年1月1日～12月31日）

鳳翩会

（単位：円）

		比率
収入の部		
寄付金	0	
2024入金会費	29,000	
2024年預り金振替	326,000	
<u>収入の部合計</u>	355,000	100%
支出の部		
【OB通信8月号関連】		
1) OB通信印刷代	62,700	
2) 葉書代	12,765	
3) 封筒、コピー、用紙、タックシール代等	2,682	
3) 郵送代	27,020	
4) OB通信発送協力費	3,200	
小計	108,367	30.5%
【OB通信12月号関連】		
1) OB通信印刷代	70,400	
2) 封筒、コピー、用紙、タックシール代等	9,697	
3) 郵送代	49,140	
小計	129,237	36.4%
【OB総会】		
1) 総会支援金	60,000	
2) 学生参加補助	32,000	
3) 学生・OB旅費補助	101,390	
小計	193,390	54.5%
【その他】		
1) 会計監査参加助成金	3,200	
2) 記念品代	4,995	
3) ホームページ運営費	6,765	
4) 事務局費	10,000	
5) 現役支援金	50,000	
6) 海浜合宿支援金	30,000	
小計	104,960	29.6%
<u>支出の部合計</u>	535,954	151.0%
収支		
2024年収支	-180,954	-51.0%
剰余金		
前年度繰り越し	583,792	
翌年度繰り越し	402,838	

次に、2024年12月31日現在の貸借対照表についてご報告いたします。貸借対照表をご参照ください。預金の期首残高1,659,792円です。当年入金会費等の増加369,000円、当年経費支出等による減少535,954円で、預金の期末残高は1,492,838円となります。（広島貯金事務センター振替受払通知表44号（令和6年12月30日）の現在高と一致）会費預り金の期首残高1,076,000円、当年会費入金369,000円、当年会費への振替355,000円であり、会費預り金の期末残高は1,090,000円となります。なお、会費預り金1,090,000円の2025年以降の内訳は期末残高のとおりとなります。剰余金の期首残高は583,792円、当年の収支はマイナス180,954円であり、剰余金の期末残高（翌年度繰越金）は402,838円となります。以上から負債及び剰余金を合計した期末残高は1,492,838円となります。

貸借対照表(2024年12月31日現在)

鳳翔会 (単位:円)					
	科 目	期首残高	当 年		期末残高
			増加	減少	
資 産 の 部	現金	0	0	0	0
	預金				
	広島郵便貯金センター	1,659,792	369,000	535,954	1,492,838
	預金計	1,659,792	369,000	535,954	1,492,838
資産合計		1,659,792	369,000	535,954	1,492,838
負 債 の 部	未払費用	0	0	0	0
	会費預り金				
	2024年	326,000	29,000	355,000	0
	2025年	247,000	75,000		322,000
	2026年	193,000	73,000		266,000
	2027年	125,000	55,000		180,000
	2028年	77,000	47,000		124,000
	2029年	33,000	37,000		70,000
	2030年	27,000	16,000		43,000
	2031年	21,000	10,000		31,000
	2032年	13,000	6,000		19,000
	2033年	8,000	7,000		15,000
	2034年	4,000	5,000		9,000
	2035年	2,000	7,000		9,000
	2036年	0	2,000		2,000
	2037年	0	0		0
	2038年	0	0		0
	2039年	0	0		0
	寄付金等	0	0	0	0
	会費預り金計	1,076,000	369,000	355,000	1,090,000
負債合計		1,076,000	369,000	355,000	1,090,000
剰余金 剰余金		583,792	-180,954	0	402,838
負債及び剰余金合計		1,659,792	188,046	355,000	1,492,838

振替通知表 44号（令和6年12月30日）

振替受払通知票

01530-0-16050

令和 6 年 1 2 月 3 0 日

T5010001112730 ゆうちょ銀行

広島 貯金事務センター

通知番号及び越前	44号	1,471,838円
受 入 常 信	払込金(一般)	円
	払込金(新帳票)	2
	払込金(DT)	
	払込金(MT)	
	振替受入れ	
	公金払込み	
	自動払込み	
	その他受入金	
	払込金	
	振替受入れ	
払 出 常 信	現金払出し	
	振替払出し	
	簡易払	
	その他払出金	
	現金払出し	
	振替払出し	
	加入者即時払	
	小切手払渡し	
	料 金	
	現在高	

料 金 内 訳	
払込料金	円
払出料金	
振替料金	
その他料金	
税込10%計	
内税10%	
非課税料金	
小 切 手 番 号	
明細番号	始番号 終番号
電信受	
電信払	

次に監査報告を致します。平野監査役より以下の報告がありました。

「令和7年2月1日、監査平野展康と日野耕二は、令和6年度の会計帳簿、経費支出何兼経費支出報告書と会計決算報告書の提出を受け、会計監査をおこないました。その結果は監査報告書のとおりであり、当年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であることを確認しました。」

会計報告、監査報告については以上です。

監査報告書

1. 監査実施年月日

令和7年（2025年） 2月1日（土）

2. 監査の場所

やまぐち県民活動支援センター 交流ルーム

3. 監査に立ち会った者

4. 鳳翩会 会 長 田村 伊正

鳳翩会 副会長 三國 彰

鳳翩会 事務局長 木村 幸誠

鳳翩会 新事務局長 緒方 若菜

4 監査平野展康並びに日野耕二は、鳳翩会令和6年度収支決算書の



提出を受け、各帳簿、証拠書類について、監査を行った結果、

適正に処理されていることを認めた。

令和7年（2025年） 2月1日

鳳翩会

監査員

日野耕二 
平野展康 

第2号議案 2025年度事業実施計画（案）および事業予算（案）

令和7年度（2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日）の事業実施計画（案）について三國副会長より報告があった。

【2025年度事業計画】

令和7年度も総会開催予定であり、総会支援を行う予定です。なおOB通信については経費の削減を目標とし、夏号はHPのみの掲載とし、冬号は通常どおり冊子とHP掲載をすることにしました。現役学生の活動も活発化してきており、現役学生の積極的な支援を行う予定です。

① 令和7年度上期事業経緯報告

(1) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

- 1) 昨年に引き続き卒部生歓送会（追いコンに合流；3月19日）を実施し、卒部生に花束を贈呈
- 2) 現役支援金（装備費や活動援助金として）の授与

(2) 役員会等の開催

- 1) 2024年度会計監査 2025年2月1日に実施 監査役：日野耕二、平野展康
- 2) 総会に向けた準備会議
第1回総会準備会議（3月15日）萩海の家にて実施（本部・山口支部）
本部・山口支部会議（3月19日 卒部生歓送会前に実施 主に総会の方針についての打ち合わせを行った。
- 3) 第2～5回総会実行委員会（5月～9月末）山口県民活動支援センター及び山口大学ワンゲル部室にて実施した。
- 4) 支部長会議（6月17日 WEB 会議）を実施
総会、OB通信原稿依頼HP掲載についてスケジュール等について協議
発送について協議（OB通信の夏号はHPのみの掲載とし、冬号は通常どおり冊子とHP掲載をすることに決定

(3) 2025年総会の実施決定

- 2025年総会を山口支部で開催予定
（開催日時；2025年 10月25～26日
開催場所；「萩焼の宿「千春楽」 山口県萩市堀内菊ヶ浜 467-2

② 令和7年度下期の事業予定

(1) 総会における支援

- 1) 総会支援金の進呈予定
- 2) 現役への総会参加要請および参加支援予定

(2) 「OB通信（会誌）の発行

- 1) 発送作業（6月28日）OB 会計の予算削減のため、冊子は送付せずHP記載のみとした。
- 2) 12月号の発刊予定

(3) 山口大学ワンダーフォーゲル部の活動に対する支援

令和7年度は現役部員の入部は22名、学生の活動も活発化してきています。合宿（8月に2パーティ計画）他の活動に加え、7、8月に2回の海浜合宿も開催されました。引き続き活発化してきている学生への支援を行う予定にしています。

- 1) 海浜合宿の支援（海浜合宿支援金の授与）
- 2) 支部活動への参加要請、交流促進

続いて令和7年度の事業予算（案）について斎藤幹事より報告があった。

2025年OB会会計中間報告（9/30）

1. 入金

2025年会費預り金振替	322,000	
2025年入金会費	27,000	
寄付金※	30,000	
合 計	379,000	

2. 支出

（1）既支出金		（内訳）
2025年 総会案内送付関連	29,201	
印刷代		480
葉書代		894
封筒、用紙、タックシール代		3,277
郵送代		22,950
送付作業協力金（学生）		1,600
その他	105,432	
会計監査参加金（学生）		3,200
花束代（追いコン）		12,232
事務局費		10,000
現役支援金		50,000
海浜合宿助成費（萩）		30,000
小 計	134,633	
（2）今後の支出見込金(概算)		（備考）
ホームページ運営費	5,307	
総会支援金（山口支部へ）	60,000	
総会(現役参加支援；9名)	45,000	懇親会費
OB通信12月号発行経費	100,000	
小 計	210,307	
合 計	344,940	

3. 差し引き残高見込

入金	379,000	
支出	344,940	
収支	34,060	

4. 繰越金見込

前年度繰り越し金	402,838
今年度収支見込	34,060
次年度繰り越し金見込	436,898

備考： ※寄付金内容；林 幸司様（S46卒）， 岡崎 雅治様（S60卒），
故 嘉村 耕治様(S39卒）の奥様から寄付金をいただきました。

第3号議案 次期会長の選任について

「鳳翔会 会長等役員選出要領」に従い、田村会長が選挙委員長となって、以下の選挙人によって選挙を実施いたしました。その結果は以下のようになっています。

【鳳翔会 会長選考委員】

田村会長、三國副会長、田原副会長、田中幹事、古谷幹事、石川幹事、坂田幹事、平野監査、
日野監査 小林東京支部長、池田関西支部長、堀九州支部長の合計12名

【選考結果】

三國 彰（現副会長）昭和55年 工学部卒 11票
棄 権 1票

この結果に基づき、総会において三國現副会長が選任されました。

第4号議案 令和8年秋季総会の開催について

これまでの順番を考慮すれば2026年総会開催は「九州支部」での開催の順番となります。そこで九州支部の堀支部長にご意向をお尋ねしたところ、すでにその報告で準備を進めているとのことで快く承いただきました。

（その他）

田原副会長よりOB会誌「鳳翔2025年 12月号」の原稿の募集要項について以下の説明がなされた。

締 切：11月25日（火）必着

提出先：各部長宛て（各支部長は取りまとめて編集部まで送付下さい）

募集テーマ：（例）A「私の近況」 B「同期会報告」 C「お勧めの山、観光地」

D「健康維持の取組み」 E「自由テーマ」など

なお、提出原稿を作成する際は下記の留意点を遵守してください。

(1)「定型フォーム」をご使用し、2000字以内でお願いします。

(2)お一人1テーマにつき1作品でお願いします。

(3)応募の際には①氏名、②卒学年、③学部をご記入ください。

もし、掲載可であれば電話、メールアドレスも書き添えていただいても結構です。記載があれば無条件に掲載させていただきます。

冊子の原稿を読みやすくするため、ページの最初にタイトルがくるように配置することから、写真の大きさや位置を調整させていただくことがあります。ご了承ください。

4. OB 総会報告

山口支部 支部長 S57 年 理学部卒 坂田信一

10月25日(土)、26日(日)に萩市の「千春楽」において総会を行いました。今回は、総会に69名、懇親会には現役を含め約80名の参加を頂き、大変盛り上がることができました。無事に終えることができ、関係者一同ほっとしております。また、参加者の皆さんの協力に感謝いたします。以下に、2025年OB総会について報告します。

1. 準備状況

2024年	2月	山口総会の開催に向けて実行委員長(坂田)、開催地(萩)を決定
	5月	宿泊施設の調査を行い、価格と宴会会場を考慮し「千春楽」に決定
	10月	東京支部のOB総会において、山口支部開催をアナウンス
2025年	3月	実行委員会キックオフミーティング
	5月	レクレーションプランの確定
	6月	総会案内状の送付(同時にweb上にHP開設)
	9月	係の進捗確認、現役との打ち合わせ
	10月	参加者確定、宿泊部屋割り、懇親会進行決定
	10月	OB総会開催

総会の準備は約1年半前からスタートします。宿泊施設をロケーション・価格・収容能力を参考に決めるのですが、この時点で、ある程度参加人数を推定してホテル側に伝える必要があります。この点はとても難しい作業です。もっといい方法を見出す必要があると思います。

2. 総会の状況(カッコ内は担当者)

25日	11:00	バス到着者の荷物運搬(S59 平野、現役)
	14:30	萩八景遊覧船(S57 田原)
	14:45	萩往還講演会(S52 古谷)
	16:30	受付開始(S60 斎藤、S58 日野、S57 徳田、S52 古谷(恵)、S45 熊谷)
	17:00	総会
	18:30	懇親会(S49 石川、S55 三國、現役)
	21:00	二次会
26日	8:00	萩往還講演会(S52 古谷)
	9:00	萩城内見学・指月城登山(S58 日野、S52 古谷(恵)、S53 田村)
	9:00	萩八景遊覧船(S57 田原)

3. 詳細報告

10月24日(金):

前日入りしたOBが過ごせるように、24日から「海の家」を解放しました。現役3名、S52卒部同期会のメンバー6名、私(坂田)に加え、H26卒部の川地さんが一歳の子供を連れて遊びに来てくれました。OB総会には参加したいけど、子供が小さくて参加ができないという若い会員に対応していくことは、これから大切な取り組みになると思っています。24日は晴天で、気持ちよく海を眺めて、潮騒を聞いて、ゆっくり過ごすことができました。午後からはS52のOBが集まりはじめ、にぎやかになりました。



10月25日(土):

いよいよ総会当日。天気は良好。朝10時ごろから、「海の家」に運営委員、OB、現役が集まりはじめ、にぎやかな感じで午前を過ごしました。11時到着のバスに合わせて、荷物係が出発し、午後から「萩八景観光船」と「萩往還講演」を行うために、担当者が出発しました。14時にはほとんどの人が「千春楽」に移動し、受付作業、レクレーション対応に当たりました。「海の家」では景色を楽しんで、お茶やビールを飲んで、ゆっくりしてもらおうと思っていましたが、総会の準備作業も同じ場所で進めたので、結構ばたばた感もあり、ゆっくりできたかな?と思い起こしています。

16時から受付がはじまりました。何人かのOB会員も手伝ってくれ、渋滞することなく受付を行う事ができました。ひさびさに面会する先輩、後輩の楽しそうな声掛けを聞くことができ、OB総会の楽しさが盛り上がっていました。

17時から総会を開始し、問題なく終了。その後、総会会場から3階の懇親会会場へ移動し、記念写真を撮影しました。総会では、総会→写真撮影→懇親会の流れでよく混乱を起こすのですが、今回は大変スムーズでした。



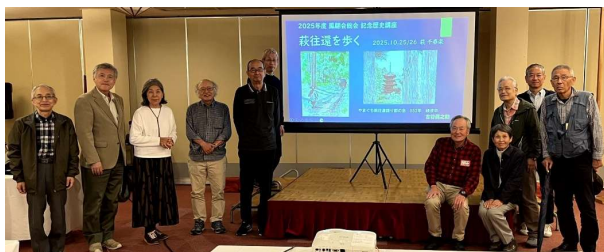
18時半から懇親会が始まりました。懇親会の各テーブルには8名の着席にしたのですが、意外に料理の品数が多くて少し窮屈でした。8名は同期で同じテーブルに座れることを優先した結果なので、まあ、それでよかったと考えています。懇親会は皆さんの会話が弾んでいたために、現役のスタンツに気が付かなかった人も多かったような気がします。それなりに準備をしたスタンツでしたので、もっと目立つ形で行いたかったと感じました。懇親会は20:30には終わる予定でしたが、歌で盛り上がり、随分押してしまいました。ホテル側が許容してくれたので問題にはなりませんでしたが、会場の外では仲居さんが終了を待っていました。

懇親会后、その場所で2次会を行い、同期や後輩と一緒に楽しく話をする事ができました。



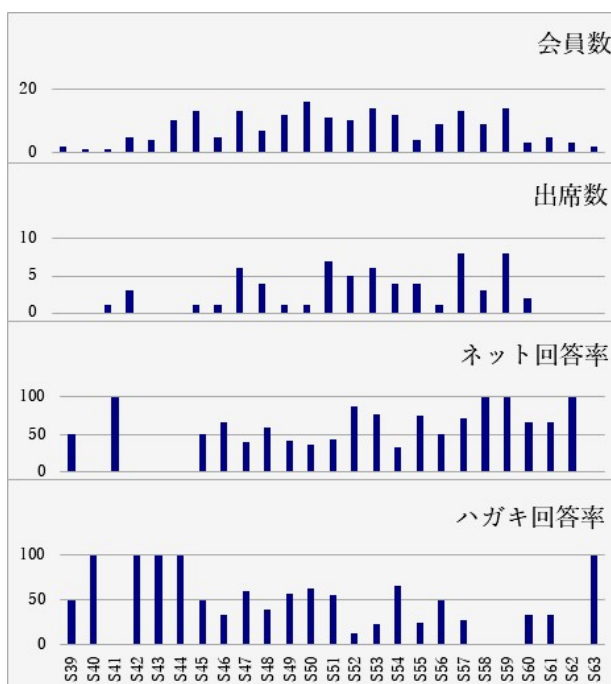
10月26日(日)：

雨がぱらつくかもしれないと心配しましたが、運よく晴れが続いてくれました。朝食を済ませ、多くの人が各種のレクリエーションに出発しました。レクリエーションの終了を待つ間は静かなもので、OB総会の騒がしさが嘘みたいでした。皆さんがレクリエーションからホテルに戻り、「また会おう」と話をしながら各自解散していきました。運営委員は「海の家」に戻って最後の撤収作業を行いました。運営委員の全日程が終了したのは14時。遅めの昼食を食べる頃には天気が急に崩れはじめ、食事を食べ終わる頃には、激しい雨が降っていました。「天気の神様が味方してくれたOB総会」と感じ、萩を後にしました。



4. Webの取り組みと総会データ：

今回の総会では、web を活用して「総会案内」と「出欠回答」を行いました。うまく行くか心配でしたが、ほぼ目的通りの動きをしてくれました。約220通の案内を出して、返答は132(60%)、ネット回答80、はがき回答52でした。現状、はがき回答のデータを手入力する必要があり、面倒さは依然として残っていますが、ネット回答80名分のデータ入力が省けたことに利点があったと理解すべきでしょう。最後に、今回得たデータをグラフ化したので載せておきます。なお、平成～令和卒の会員は、極めて少数なので無視しました。



5. 支部報告

東京支部活動報告

東京支部 事務局長 S55 年 工学部卒 小関哲哉

8月23日(土) 暑気払い

参加者(13人): 小林、秋山、高田、村上、木村、武田、小田、真島、森本、松永、木下、藤川、小関

場所: Schmatz (シュマッツ) 東京ポートシティー竹芝店 (ビアホール)

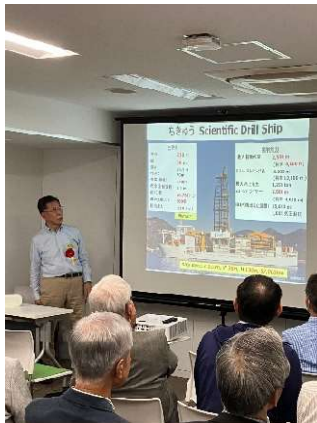
「とりあえずビール!」に違和感を持った2人のドイツ人が創業したお店です。ビールの全銘柄5種類を制覇しよう・・・ってお話がありましたが、みなさんクリアできましたか? ドイツのクラフトビールとおつまみを堪能することができました。最後はテラス席エリアで集合写真を撮って解散しました。



10月11日(土) 小林支部長講演 ～常盤工業会化学系関東支部OB総会(31名出席)に参加

(YUWVから小林、森本、古賀、小関参加)～

常盤工業会化学系関東支部の依頼で小林支部長が『地球深部探査船「ちきゅう」の挑戦』の題目で講演を行いました。講演後に質問がなかった場合に備えて「サクラ質問」を用意していましたが、およそ45分の講演を終えると、今後の探査の動向やレアアースやシェールガス、マントルなどの質問が続出し、時間の関係から4質問で打ち切りとなるなど大いに盛り上がりました。化学系と異なる分野の講演でしたが素人にも分かり易く、最後は盛大な拍手で終了しました。



11月8日(土) かまど山(278m)、久須美山ケルン(278m) 飯能アルプス山行

参加者(6名): 小田、森本、秋山、小林、長谷雄、小関

今回は埼玉県飯能アルプスを歩きました。武蔵横手駅に10時に集合し、樹林帯の続く尾根を歩き、久須美山ケルンで集合写真を撮りました。ピーク直下の「丘の上公園」で飯能の街並みを見ながら昼食タイム。予定より少し遅れ気味のため、また日没の心配もあったので、途中からバスで飯能駅に向かいました。

なお、詳細は本誌「東京支部 秋の山行」報告をご覧ください。

以上

2025 年の関西支部の活動内容は以下の通りです。

1. 新年会（懇親会）

日時：1 月 25 日 12：00～

場所：大阪十三 がんこ寿司

出席者（敬称略）：上田、金子、田村（浩三）、高月、田中、池田（久美）

内容：今後の計画策定、前年度総会参加時の反省会、その他

2. 懇親会

日時：8月2日 12：00～

場所：大阪十三 プラザホテル

出席者（敬称略）上田、田村（浩三）、高月、田中、池田（久美）

内容：今後の計画策定、

若年層の参画促進

2027 年関西で開催予定の総会について

開催の可否

役割分担を考慮すると厳しい。支部圏以外の方の応援も検討

場所の選定

主要駅から 1 時間程度の観光地、予算は一人 2 万円以内に収める

候補地として、北摂、三重（湯の山）については現調済

奈良の希望多かったが、今のところ具体策なし。

10 月の九州総会までには素案策定する

3. 今後の予定

2026 年 1 月下旬懇親会予定



山口支部活動報告

山口支部 支部長 S57年 理学部卒 坂田信一

2025 年は総会開催準備で一本です。

1. 2025年 6月 Web の準備

Google のアカウントを2つ作製しました。具体的には、メールアドレスを自分で決め、パスワードを決めることで、アカウントを作成することができました。アカウントにはグーグルのサービス群を利用できる15GBのディスクが無料で提供されます。一つ目のアカウントでは、「グーグル・フォーム」を用いて「出欠回答」の作成と公開を行い、「グーグル・サイト」を用いてホームページの作成と公開を行いました。二つ目のアカウントは「グーグル・ドライブ」を用いて写真の公開を行うことにしました。



2. 2025年 9月20日 各系の総会準備進捗確

出席者9名：田村 (S53 工)、三國 (S55 工)、田原 (S57 工)、石川 (S49 教)、古谷 (S52 経)、坂田 (S57 理)、日野 (S58 経)、平野 (S59 経)、齋藤 (S60 農)

場所：防長青年館 (10 時～12 時)

OB 総会準備の最後のミーティングを行いました。各系の進捗を説明してもらって、これで大丈夫なのかを検討しました。予定していた現役が欠席したので、後日、現役とのミーティングを行うことにしました。



3. 2025年 9月27日 現役との打ち合わせ

出席者5名+現役：田村 (S53 工)、三國 (S55 工)、石川 (S49 教)、坂田 (S57 理)、平野 (S59 経)、現役 (緒方、貞政、竹本、北中)

場所：山口大学ワングル部BOX (10～12 時)

現役との最終確認とスタンプズ打ち合わせを行った。ワングル部のBOXに数十年ぶりに入った。(写真は現在の部室の様子です)



九州支部活動報告

九州支部 支部長 S57年 経済学部卒 堀 剛

OB 通信 8 月号以降の活動を報告いたします。

★7 月 26 日(土) 日帰り山行：井原山(982m) ♣オキヱノカミソリ観賞登山♣ 参加者 6 名



・井原山は背振山地を代表する花の山です。夏を彩るオキヱノカミソリはちょうど見頃を向え、群生の幻想的な光景の中を溪流沿いにゆっくりと歩きました。山頂は風が涼しく空気も澄み、雲仙岳や英彦山などの遠景もはっきりと見えていました。

★8月23日(土) 懇親会(暑気払い) 「お料理 みつやす」にてランチ会 参加者 10 名



・料亭「お料理 みつやす」でランチ会を開催。ランチメニューが好評なお店で質・量ともになかなかのものです。お店にお願いして飲み放題付きのランチ会にいただきました。

★9月27日(土) 日帰り山行：小文字(366m)～足立山(598m) ♡関門海峡の展望♡ ★参加者 4 名：



・静かな緑深い森に囲まれた足立森林公園に小文字山、足立山があります。いかにも北九州市民の憩いの森という雰囲気です。公園の一角に朝鮮戦争で亡くなった連合国軍兵士を追悼するためのメモリアルクロスがあり、その近くにある登山口からスタートしました。小文字山までコースタイム 40 分ながら、いきなり階段の急坂から始まるコースは難関といえますが、たどり着いた山頂からの眺めは最高です。この陰しさと眺望と、「山、高さが故に尊からず」の代表のようなお山でした。足立山までの縦走路には手作り感のあるベンチが設置された見晴らしの良い休憩ポイントなどあり、のんびりと歩きました。

★10月17日(金) 日帰り山行：八方ヶ岳(林ヶ 外、1,052m) ♡大展望を求めて♡ 参加者3名

・熊本県菊池市に位置する山です。昨年途中で引き返し、今年リトライすることに。美しい溪流と自然林、梯子とロープの急登など変化のある山は地元の自慢の山のようにです。

・当初予定の10月18日(土)が雨の予報のため実施日を1日繰り上げました。これが功を奏し、快晴の大展望を楽しむことができました。山頂にはマツムシソウも咲き残り、山行中にはアサギマダラとも幾度か出会えました。



★11月15日(土) バーベキューランチ会 「堀ちゃん牧場」本店にて 参加者12名



・例年この時期は福岡市営の「今宿野外活動センター」でバーベキューを楽しんでいました。同センターの近所にある「堀ちゃん牧場」というお店のお肉が大変美味しく、九州支部の人気イベントでした。ところが今年は同センターが改築工事のため来年春まで閉鎖となり本イベントが中断の危機に・・・！会員からは「何とかならない？」との声多数・・・！

そこで「堀ちゃん牧場」が運営するバーベキュー会場を貸切ることとしましたが、普通であれば例年より会費が跳ね上がるため、これまでのお肉の購入実績と会員の同店のお肉への人気の声を背景に交渉したところ、快く特別価格で引受けて下さいました。ドリンクは持込みは自由に、追加の野菜やつまみ類も持ち込み可となり、代わりにゴミは全て持ち帰るなど。今年も美味しいお肉に舌鼓を打つことができ、和やかな時間を過ごすことができました。店員さんも大変親切で、帰り際に会場の庭に成る柚子を採って袋に入れ一人一人に配っていただいたり。

・ランチ会の後は、これも恒例になりました武富さんの畑で芋掘りをしました。武富さんの畑のサツマイモの大きさにはいつも驚かされます。その他にも沢山の野菜をいただき皆さん重いお土産を担いで解散となりました。武富さんはバーベキューランチ会にはご都合で参加できなかったにもかかわらず、畑の準備から芋掘りのお付き合い・ご指導などいただきまして感謝申し上げます。

尚、「堀ちゃん牧場」とのやりとりで「堀ちゃん割引はありますか？」と図に乗って尋ねますと、「実はうちは堀田なんです。」との答えでしたv(^o^)v

6. 現役報告

2025年 夏合宿報告

山口大学ワンダーフォーゲル部 人文学部 4年 緒方 若菜

今年は夏合宿として、北アルプス2泊3日の縦走を行いました。中房温泉登山口から入山し、燕岳、大天井岳、常念岳、長堀山、蝶ヶ岳を登り上高地に下山するパノラマ銀座コースです。

初日は天気にも恵まれ、北アルプス三大急登の合戦尾根に苦戦しつつも、おおむね予定通りのタイムで燕山荘に到着しました。白い花崗岩が連なる燕岳の景観は、「北アルプスの女王」と呼ばれるのも納得の美しさで、合戦尾根で消耗した体力が回復するような感覚でした。

2日目は早朝から濃霧に見舞われ視界が悪く、また風も強かったため慎重に登山道を進みました。霧と強風、続く急な登りに心身ともに疲れ切っていたところ、大天荘付近で雷鳥の群れに遭遇し、勇気づけられたことでなんとか大天井岳も登頂することができました。雷鳥の御利益かその後は天気も回復し、360度広がる北アルプスの絶景を臨みながら稜線歩きを楽しみました。

最終日はあいにくの大雨予報で、急遽ルートを変更し一の沢登山口に下山することになりました。大雨と強風の中での常念岳登山はピストンとはいえかなりの高難易度でしたが、その分登頂した時の喜びはひとしおで、百名山を登り切ったという体験に誇らしい気持ちになりました。その後はひたすら下りの道が続きましたが、大雨の影響で足場が悪く、川も増水していたため一時も気が抜けない状況でした。それでもみんなで励ましあいながら慎重に下山し、誰一人大きな怪我をすることなく無事に合宿を終えることができました。

悪天候や予期せぬハプニングにも見舞われましたが、その度に仲間の存在の大きさに気づかされました。仲間との絆がさらに深まった思い出深い合宿となりました。



7. 同期会だより

半世紀ぶりの同期会開催

山口支部 S52 年 経済学部卒 古谷眞之助

卒業してから実に半世紀、48 年振りにやっと開催できた同期会。昨年開催するつもりでメンバーには連絡を取ったが、昨年初めに自分自身の都合が悪くなり、今年に延期させてもらったもの。OB 会名簿を見ると、S52 卒で会員となっているのは 9 名。そのうち 6 名の方に参加いただいた。参加者は以下のとおり。

OB/村上文明・木下信一・藤川信一・古谷眞之助・古谷(田島)恵子・松永(酒井)初恵・清家(田島)和子
学生/緒方 4 回生・北中 3 回生・津室 ?

の合計 10 名だった。清家和子は家内の姉で、かつ元ワングルの 1 年先輩ということで参加いただいた。

初めて萩市で開催された今年の OB 総会の前日、10/23 の午後 3 時過ぎに田村会長の会社の保養所「海の家」に集合した。迷惑を掛けぬために全員寝袋持参である。そして地元の利を生かして、家内と義姉の二人が買い出しに走った。田村会長からはお酒の差し入れもいただいた。感謝。

記憶では時刻 5 時頃から豪華な食事が並べられて宴会が始まり、その後延々と続いてお開きは午前 1 時を回ったようである。ただし、私は 10 時過ぎには完全に出来上がってしまったらしく、その頃から後の記憶は全くない。以下、残された写真をもとに記憶を辿ってみることにしよう。

まず、パワーポイントを使用して、私が準備した現役時代の「懐かしい写真集」を上映した。このパワーポイント上映以降は、2011 年の秋吉台総会の時に使用した歌集を持参していたので、それを配って歌を歌い、その後で確か各自の近況報告を行ったと記憶している。その内容は、およそ以下のようなものだった。間違えていたらゴメンナサイ。

村上君 猫や犬をたくさん飼っている。毎日酒を飲んでいる。

木下君 現在税理士(司法書士?) 事務所を開いている。

酒井さん マラソンやトレイルランニングで走り回っている。

藤川君 確か、再再就職ということで、ゼリア新薬で働いている。

家内 マイペースで生きている。オカリナを習っている。

義姉さん トレッキングとボーリング、花壇づくりを行っている。

眞之助 萩往還ガイド、歴史講演会で頑張っている。酒も毎日欠かさず飲んでいる。

およそ、こんなことだったと思う。家内の話によると、私は 10 時過ぎから椅子に座って寝ていたため、そこから転んで一旦目覚めたものの、そのまま床で寝てしまったとのこと。しかし、それからみんなは、午前 1 時頃まで大いに飲んで語っていたそうである。もう、そこまでのお付き合いは自分には無理である。

翌朝、目の前に広がる菊が浜の北北西、尾島の左側に、菊が浜から約 50km のところにある見島を遠望できた。ぼんやりとではなく、はっきりと。これまで何度も萩を訪れているが、ここから見島を望むことが出来たのは初めてのことである。昨日のお酒がまだ体に残ってはいたが、なかなか気持ちのいい朝ではあった。

同期と思う存分話せたし、今どきの学生さんの気質も分かってとても有意義な同期会だった。この期のキャプテンを務めた者として、いつかは同期会を開催せねばと思いながら、実に卒部後 48 年経過しての同期会開催となったが、これで肩の荷が下りたというのが正直なところ。

総会当日と翌日は「歴史街道・萩往還」の講演会を行い、参加人数は少なかったものの、歴史に関心のある方々から鋭い質問も多く出て、こちらもとても有意義なものになったと思っている。そして総会後の恒例の大合唱。初めて萩で開催される OB 総会は、私だけでなく同期の諸君も、そして参加いただいた皆さん全員が楽しめたものと思う。そして今、心はすでに来年の総会へ。来年またお会いしましょう。



「海の家」で開催した同期会



翌朝、目の前の尾島の左手に見島



ホテルでの萩往還講演会

8. 近況報告

「人生 旅鳥 今 博多」

九州支部 S58年 経済学部卒 泉谷幸児

大学を卒業して何と 17 回目の引っ越しで、今年の 4 月から博多勤務となりました。会社生活 43 年目ですから 何と平均 2-3 年目でどこかに移動しているわけです。転勤だけではなく宿替えなどもあり、おまけに日本のみならずイタリア、アメリカも加わっているので、人生まさに「旅鳥 渡り鳥」だなあと思う今日この頃です。

齢 65 歳の最期の仕事場として辿り着いたのがここ「博多」。地下鉄 3 駅の通勤は 25 分、大濠公園近くの自宅（借り上げ社宅）に大満足。こんなにコンパクトで便利で、情に厚い土地柄とちょうど素敵な人口密度は最高です。

今月で 7 か月目の博多ライフながら、5 月のどんたく、7 月の博多山笠、そして 9 月の放生会を経験。また今年は福岡ソフトバンクフォークスの日本一優勝、そしてパレード、同時期に 大相撲九州場所（福岡国際センター）の開催、安青錦（ウクライナ出身）の初優勝、いやはや、お祭り続きで休む暇なし（?）、それだけではない博多華丸・大吉を代表に、よしもと福岡劇場も人気・人気。イベント満載、此の町は年中お祭りでいっぱいです。

さて、YUWV に入って最初に登ったのが長谷雄先輩に連れられていった久住山でした。

「旅鳥」人生の始まりがここ九州だったんだと改めて気づき、何のご縁か双六的な上りもここ九州。ならば、ここ九州でワンダラーとして再度のスタートを切ろうと実は気合入ってます。

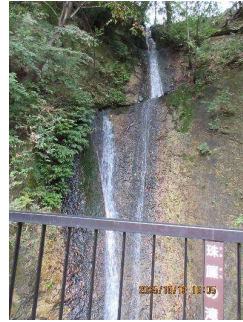
来年はまずは由布岳（温泉つけてと嫁が要求）1,563m を目指します。

そして来る 2026 年は九州支部の一員として総会での再会を楽しみにお待ちしております。皆様良い年を迎えください！！



孫娘と娘、それに不治の病・認知症の女房と一緒に群馬県みなかみ町の諏訪峡、さらに渋川市の伊香保温泉に、2泊3日で出かけた。

2025 年 10 月 18 日（土）上野駅から上越新幹線で 11:18 上毛高原駅着。バスで 11:50 水上駅バス停着。駅前の食堂に入り蕎麦で昼食。今夜宿泊する源泉湯の宿・松乃井の迎車で松乃井に行き荷物を預けた。利根川に架かる紅葉橋を渡り、諏訪峡遊歩道を歩いた。諏訪峡一帯の岩質は変質石英粗面岩、同質凝灰岩・凝礫岩を主としている。女房と筆者は杖を突いて歩いた。しかし遊歩道どころか、ちょっとした登山並みの道で難渋。落差 20m で玉すだれのような景観の珠簾（たますだれ）の滝。竜ヶ瀬。さらに諏訪峡大橋の下まで歩き、引き返した。



16:05 珠簾の滝



16:20 笹笛橋を渡る

笹笛橋を渡った。橋を渡った所が与謝野晶子歌碑公園となっている。与謝野晶子はみなかみ温泉などみなかみ町を 4 度訪れており、昭和 7 年 5 月 10 日には諏訪峡を訪れ 24 首歌っており、その 1 首に「利根の洲の白きあたりにかじか鳴き湯側より夕風のぼる」がある。松乃井の迎車を受け、さっそく温泉入浴・露天風呂。夕食はバイキング方式で腹一杯に、筆者と娘は瓶ビールも、筆者はさらにレモンサワー。

10 月 19 日（日）朝食はまたもバイキングで十分に食べた。旅館の車で水上駅へ送ってもらい、バスに乗り谷川岳ヨッホ（旧谷川岳ロープウェイ）乗り場へ。15 分間の空中散歩で標高 1319m の天神平駅へ上った。娘と孫はさらに、リフトに乗り天神峠に上った。女房はリフトから降りるのが危ないと思い、筆者と一緒に 2 人を待つことにした。ちなみに筆者は、18 年前の 2007 年に一人で双耳峰（トマの耳 1963m、オキの耳 1977m）の谷川岳に登頂している。孫と娘がリフトで下りて来てからレストランで昼食を食べた後、ロープウェイで下山。13:52 発のバスで水上駅に行き、JR 上越線に乗り 38 分で渋川駅、バス 24 分で伊香保温泉に 17:05 着。伊香保温泉は約 1000 年前の第 11 代垂仁天皇の時代に発見され、万葉集の 9 首の和歌に載せられている。江戸時代には滝沢馬琴や十返舎一九などが訪れ、明治時代には徳富蘆花の不如帰（ほととぎす）の舞台となり、伊香保温泉の名が全国的に知られるようになった。今夜の宿泊宿・源泉かけ流し 黄金の湯 古久家に到着。孫の希望ということで、かけ流しの湯が外側にある部屋を娘が予約していた。早速、部屋の外にあるかけ流しの湯の円筒形の檜の湯舟に入った。また、温泉の大浴場と露天風呂にも入浴。その後の夕食は豪華。それに孫はオレンジジュース、筆者と娘は麒麟瓶ビール、さらに娘はあらごし梅酒水割、筆者はレモンサワーを追加。



11:31 谷川岳を背に記念写真



16:26 部屋の外の湯に入る孫達



18:22 豪華な夕食

10 月 20 日（月）筆者と孫・娘は朝の温泉大浴場と露天風呂に。近くにある伊香保ロープウェイに乗り、見晴展望台で谷川岳や赤城山などの遠景を堪能した。次いで、石段街に歩いて行った。天正 4 年（420 年前）頃に形成されたと伝えられ、石段は 365 段あり温泉街のシンボル。両側には温泉旅館、土産物屋、遊技場、飲食店などが軒を連ねている。石段を少し上がると足湯があった。女房を足湯に浸からせ、伊香保神社に参った。第 11 代垂仁天皇朝時代（紀元前 29～70 年）の開基という。境内には万葉歌碑「い香保ろの 八坂の堰塞 立つ虹の 顕ろまでも さ寝をさ寝てば」があった。



14:24 伊香保神社の本殿

長野浅芳君の訃報に接して

東京支部 S44年 農学部卒 原 具寛

その知らせは突然でした。令和7年10月22日、ご本人のスマホから奥様が記された悲しいお知らせでした。以下文面をそのまま転記いたします。

「突然のご連絡失礼いたします。主人が先週木曜日、永眠いたしました。8月から2か月間治療のため入院しており、ようやく10月初旬退院できたものの、約10日間程しか自宅で過ごせませんでした。家族全員に見守られて穏やかな最後でした。このようなご連絡となり、大変胸が痛く、旅行に行きたくて留守しているような、またふと帰ってくるような、まだ現実とは思えない日々を送っています。病床中は思い出話を常に嬉しそうに話しておりましたので4月に来ていただいた際、主人は大変喜んでおりました。その節は本当にありがとうございました。奥様にもよろしくお伝えくださいませ。妻 和子」

実は昨年10月末ごろに長野君より電話があり、尿検査により胆のうがん？の初期であることを告げられたとのことでした。幸い転移の兆候はないようだとのことと手術によって回復を目ざしたい。しかし万一のことがあっても、家族が生活に困らないだけの貯えもあり大丈夫かなと、少し弱気な言葉も聞かれました。電話の内容が真剣だったので、病気が治ることだけを考えて…励ました記憶があります。11月初めに長野君への手紙は

「長野君へ、先日は思いがけない電話に驚きを禁じえませんでした。80年余り年を重ねると、体力、気力とも衰退していくことは当然だと認識しながら、自分だけは特別だと密かに思うところがありました。4年前のコロナ被災（一時は死をも覚悟しました）に伴い前縦隔腫瘍が発覚、手術にて幸い良性と判明し胸をなでおろしました。現在は胸部大動脈りゅうの経過観察のため年一回の検診を受けております。長野君の場合は尿の異常により胆のうがんの？の初期を告げられて、さぞびっくりされたことと思います。幸い転移の兆候はないとのことでしたので、手術にて回復されることを信じております。電話でもお話ししましたが、妻も大腸がんの宣告を受け、大腸を14cm切除いたしました。今は手術は無事に終わり、16年を経過し、毎年検診を欠かさず受けております。最近自分から希望して胃カメラ検診も受け続けています。今の私には祈ることしかできませんが、本日虎ノ門の金比羅神社にて病気回復のお守りを頂きましたので同封いたします。病状の早い回復を祈っております。お身体ご自愛ください。令和7年11月4日 原 具寛」

今年の4月になって術後のお見舞いの打診をメールでやりとしておりましたが、連休明けでも会いましょうとの返事でした。私たち夫婦はなんとなく一度は早めにお見舞いがしたく半ば押しかけ気味に4月22日に京都のお寺のお参り方々、お寄りしますとお見舞いにご自宅に伺いました。ご自宅では奥様と二人でリビングでお会いいたしました。術後でもあり食欲がないので困っていると、奥様から私たちに食べるように勧めてくださいとお願いされました。少し顔が細く見えました。お話の中で手術で全部は切除できなかったとお聞きし、少し心配いたしました。ご家族はさらに治療法を探しているともおっしゃっていました。

思い返せば、昨年10月10日に農学部の同期会にて元気に飲み、大いに食べ話を弾ませたばかりでした。その時には若い時の山行きの写真が手元になかったので、ぜひ送ってくれるように頼み、10月18日には写真が届き、感謝していました。私なんかよりはるかに記憶力が素晴らしく、いろんなエピソードを披露してくれたものでした。ワングルの会合にも長野君からのお誘いで参加を続けさせていただいたようなもので感謝の言葉もありません。若い時は、旅先から絵葉書が届き、世界各地を駆け回って、うらやましい限りでした。それも有給休暇を使っただけの旅は私は信じられない行動でした。仕事柄その当時わたしは家族を犠牲にしても会社一筋でしたので、いつも会うたびに、驚きをぶっつけていました。歳を重ね年に一回のワングル部会には日ごろ鍛えた筋肉隆々の肉体は驚嘆でした。ボクシングジムに通い、ベンチプレスも励み同期では一番の元気ものでした。思い出がありすぎて、話し相手がいなくなり寂しさいっぱいです。

今はただ故人のご冥福をお祈りするだけです。
60年間お付き合いありがとうございました。

合掌



毎年開催される総会にはできるだけ参加するようにしているが、ただ参加するのは面白くないのでそれに合わせてどこかしら小さな旅をすることにしている。前々回の九州は、廃止が検討されている日田彦山線から日田へ向け久大本線を走る特急ゆいんの森へ乗車、前回の東京は帰りに三島で下車し旧東海道の箱根峠を徒歩で越えた。今年の総会は萩なので、フェリーで大阪南港から新門司へ、そこから下関へ渡り萩まで山陰線を利用しようと計画した。計画時山陰本線は大雨の影響で長らく不通区間があったので危惧していたのだが時刻表では9月末より開通とあった。狙っていたのは10:08下関発12:56東萩着の観光列車「〇〇のはなし」。この一風変わった名前の列車は、萩、長門市、下関の頭文字をとっており国鉄時代の気動車（キハ47）で窓を大きくしたり座席配置を変更したりと改造されてる。全車指定なので指定券を購入する必要があるが快速列車なので特急券等は不要である。

当日8:30着のフェリーから無料送迎バスと在来線乗り継ぎ下関に9:30ごろ到着。少し時間があるので駅を出て散策。下関駅は県内では賑わいのある駅で青色のサンデンバスがひっきりなしに発着している。このサンデンバス子供のころは上部は灰色で下部は緑のサーフラインを表した色だった。福岡天神行の大型バスも停車、ふくふく号とある。ふくふく号は東京、大阪方面の夜行バスと思っていたが後で調べるとサンデンバスは夜行長距離バスからは撤退したとのこと。駅に戻る。「〇〇のはなし」発着ホームは2番線の奥で低くなっている場所である。屋根の支柱は古レールを使ったもので懐かしい。法被を着た方が紙袋を持って立っていたが、温泉の方のように観光案内と土産物配布が目的のようだ。さて列車は抵抗に発車、近頃はやりの軽量車両と異なり重みがあり、乗り心地はよい。さて列車は日本海に面した海岸線を走る。前に柱があり視界が今一つである。日本海が見えてくる。車両は時々減速するが客へのサービスと、場所により路盤が弱く速度制限があるようだ。景色の良いところでは、臨時停車し観光案内してくれる。途中阿川で長時間停車、地元住民の方が小さなカフェにておもてなしをしてくれる。客数からしてとても儲かると思わないがご苦労様である。車内で土産用かと思ひ日本酒を購入したが、「規則で」ということで開封され手渡された。つまり萩到着までに飲んでしまわなければならない。列車は定刻通り東萩に到着。そこから「まわるバス」西回りで総会会場に向かう。

総会の翌日、せっかく萩へ来たのだから寄ってみたい場所があった。祖母の実家があった三見である。三見は萩から下関より二つ目の駅で小さな漁業のまちで、小学校の時法事で訪れたことがある。ここの親族は離散し関係する人はいないが現在どんなか見てみたかった。時刻表を見ると東萩からは9:05これを逃すと午前中は列車がない。いそいで旅館を後にする。前回小学生の来訪時は家のある小野田（現山陽小野田市）から、厚狭経由で美祢線、山陰本線と列車を乗り継いできた。当時はまだ蒸気の時代で駅を降りると機関車から吐き出す蒸気のなかとぼとぼ線路沿いに歩きそれから踏切を渡り海岸方向へそれから家へ向かった記憶がある。駅を降り立つと驚いたことに道や家並みが当時の思い出のままひっそりと存在していた。持ち主は代わっているが実家もあった。この家の2階は窓のたくさんある部屋で日本海を望むことができた。当時そっと忍び込んだ2階の部屋には寝たきりの爺様が布団に横たわってうつろな表情で天井を見ていた。部屋の隅に小さな松陰先生のブロンズ像が鎮座しており、子供ゆえにその爺様にその像のいきさつを尋ねたところぼつぼつとずいぶん長く説明してくださった。願わくば、その時何を語られたのか知りたい。よき思い出である。三見は観光地ではないが美しい漁村で一見の価値がある場所である。写真を掲載しておく。



〇〇のはなし 車窓（奥に二見夫婦岩が見える）



三見にて（海岸べりの岩山から町を見る）

九州・万年山、黒岩山（8月15・16日）

毎年やっている高校のクラス会の前後に、少し涼しい故郷・大分県の山を散策。
終戦記念日。朝食をちゃんと取り、7時に山口県宇部の家を出発し牧ノ戸峠には10時着。売店でムスビを食べ、ゆで卵を買って黒岩山へ。久住方面と違ってあずまやを過ぎるとほとんど人はいない。往復で出会ったのは三組のペアだけ。どちらから？などと軽い会話を交わして標高差200mをぼちぼち急登。山頂でみかんを食べて休憩後山頂を一周して12時に牧ノ戸に戻り、懐かしい長者原の売店二階の温泉で一人のんびり汗を流した。

夜のクラス会では遠慮なく飲み、食べ、二次会では久しぶりに午前様になるほど痛飲。
朝、目覚めると意外と気分もよく食欲も十分。ホテルの朝食をしっかりと食べて7時に出発した。車で一時間もあればゆっくり登山口。のはずだったけど、以前に来た時にはなかった「はなぐり岩登山口」という立派な案内板が各所に。その通りにのんびり走っていたら、見慣れない道になり、鹿が二頭横切ったり子狸がちょこちょこ前を走ったり。そのうち山を降りそうになり落ち着いて考えたら、これまでの道を逆に走っていて、分岐の案内板が伸びた草に隠れていて見落としたことに気づいた。うろうろして、結局駐車場に着いたのは9時半。この猛暑の中をこんな低い山、しかも日差しを遮るものがない平坦な草原を歩いて山頂に行こうというものの好きはいないようで広い駐車場に車は私だけ。

今回の私の目的は、はなぐり岩の裏の万年仏に、妻の回復をお願いすること。今はミヤマキリシマの群生地に近いので、鼻ぐり岩登山口は知られてきたけど、万年仏は知らない人が多い。
駐車場から山に向かうと、左にゲートが閉じられた広い道があり、これが花園への道。正面には山頂への大きな標識があり鼻ぐり岩は通らずに山頂へ行く道。右手の方に目立たない小さな標識が木に下がっているけど夏はササが伸び踏みあとも見えにくく、最初下にするので、初めての人は戸惑うようだ。かまわず踏みあとも下るとすぐに左に登る次の標識。そこからトラロープに頼って滑る急坂を五分も登ると鼻ぐり岩。頭をぶつけないようにくぐって振り返ると大きな仏様の横顔が正面に見える。前に康子と来たのは冬で、鼻ぐり岩にもツララが下がっていたなと思い出しながら康子が声を出せるようになることをお願いした。
無事をお願いできたので、ところどころにつけられた目印とトラロープを頼りに、滑る急登をひたすら登ると登山道に合流する。陽ざしは嫌だなと思いながらそのまま登山道を登っていくと意外にも木が伸びていて日陰の道が続く。頂上に続く平原に出ても林の中を通る道や、背丈を越える笹に覆われた道が続いて、意外にも半分以上が日陰。もう十数年来てなかった間に木々が伸びたようだ。右側にササをかき分けて行くと、切れ落ちた崖の上から九重方面の大展望が開ける展望台が何カ所も。ところどころで寄り道しているうちに山頂。1140.3m、温度計は昼前なのに28度、吹き渡る風の気持ち良さは山でこそ。誰もいない山頂で木の下の日陰で軽食をとり、帰りは脇目もふらずに50分くらいで下山、玖珠町の温泉で汗を流し、懐かしい日田焼きそばを食べて帰った。



私は、今年（2025 年）の 4 月 22 日に日本を出て、現在、ケニアで暮らしています。なぜ、ケニア？ここ数年、異文化に興味があり、以前から外国で旅行ではなく、生活してみたかったからです。しかし、現状に甘んじる引力が強くて、なかなか踏み出せませんでした。この 2、3 年このままでいいのか、臨終の時に後悔しないかと自問自答して、やっと JICA（Japan International Cooperation Agency）に応募して、合格したので、成り行き任せ（？）で行くことにしました。

私は、大学卒業後、再雇用まで中学校で数学の教師をしていましたので、ケニアのナイロビの近郊の高校で数学を教えています。学校は大きくて、3 学年合わせて 20 クラスあります。しかも、1 クラス 50～60 人で、かなりタイトです。授業は原則月～土曜日、朝 8 時～16 時まであります。40 分授業で 1 日 10 コマあります。時々朝 7 時から授業があることもあります。ケニアの公用語はスワヒリ語と英語です。授業は英語で行い、生徒も先生も英語はぺらぺらです。私は日本での訓練中に 70 日間、英語の集中授業を受けましたが、うまく伝えられないもどかしさを感じています。私は 1 日 6 コマ～8 コマ授業に参加し、同僚の先生が教え、私は解けない生徒に横で説明したりしています。日本のように授業と授業の間のトイレ時間が昼休みを除いて 2 回しかないので先生方は 10～15 分位遅れたり、来ないこともありますので、私が復習の授業をします。数学の問題の解き方も日本とは違うことが多いので日本の解き方を教えるのは憚れます。任地校では数学の授業時間が一番多いです。しかし、得点率は全教科の中で一番低いです。テストは年 8 回あります。ただし、高 3 は大学入試に向けての模擬テスト等がありますので 12 回位あります。数学のテストは 2 時間半です。テスト中はトイレや計算機、消しゴム等物の貸し借り OK です。また、テスト前の自習時間や放課後に生徒たちはよく教師に質問をします。先日高 3 の教室の前を通ったら、呼びとめられて、質問を受けました。私の英語力が不十分なので、文章が長いときはグーグル翻訳に頼みます。生徒は貧民街から来ている生徒が 7 割です。みんなとても明るく、親切で、真面目に授業を聴いています。しかし、授業料が納まっていなかったら即帰宅です。

さて、ケニアでの生活ですが、アフリカの酷暑のイメージと違って、1 年中、14～27℃ですので、とても快適に過ごせます。首都のナイロビには研修で最初の 1 か月間、滞在しました。世界凶悪都市の 1 つに挙げられていますので、移動はどんなに近くてもウーバータクシーを使わなければなりません。（JICA ルール）しかし、ナイロビは東アフリカ最大の都市ですので、物にあふれ、食べ物には困りません。果物や野菜が美味しくて、安いです。肉は日本と逆で鶏、豚、牛の順に高いです。魚はビクトリア湖周辺やインド洋に面した地域は比較手安く、手に入れることが出来ますが、内陸部は高いです。私はタンパク質は卵と豆類で摂取しています。美味しいお菓子がないので、日本にいたときより間食をあまりしなくなったので半年で体重が 5kg 位減りました。私の住む地域はナイロビから車で 40 分位のオンガタロンガイという地方都市です。他の JICA 隊員に言わせるととてもアフリカ的だと。道路状況は悪いし、人が多く、マーケットはいつも賑わっています。雨が少ないので、必ず毎日、何時間か断水があります。停電はあまりないです。だから、洗濯や食器洗い、シャワーは水道の水の流れる音が聞こえてくると嬉しくて、すぐに行動開始です。もちろん洗濯は手洗いです。学校の行き帰りは、途中に学校が多いので、特に小学生は、すぐに寄ってきて挨拶やタッチを求めてきます。彼らの笑顔を見ると私も元気になり、活力が出てきます。それから一緒に来た JICA ボランティア隊員が女性 8 人で、みんな頼もしく、先日は私の古稀の祝いを旅行中にいただきました。休みの時はケニア旅行を楽しんでいます。サファリパーク、ビクトリア湖、シラフセンター、象の孤児院等に行きました。いろいろな鳥、動物を間近で、見る事ができて、感激しました。また、ケニアは社会体制に対する抗議活動が多く、その時は、警官がそれを鎮めるために発砲します。その時は、その周辺には近寄らないことまたは外出禁止のメールが事前に JICA や大使館から来ます。7 月に家の近くで抗議活動があり、銃声がバンバン聞こえてきました。もちろん自宅に籠っていました。でも抗議活動は 1 日で終わります。だからケニア人はあまり気にしていないようです。

最後に、もしケニアにいらっしゃることがあれば、ご連絡ください。JICA 推奨のホテルやサファリパークのツアーガイドの紹介をします。

メールアドレス；treize.813@gmail.com ケニアの電話番号 +254 116 913431



赤道と道路が交差するところ
です。



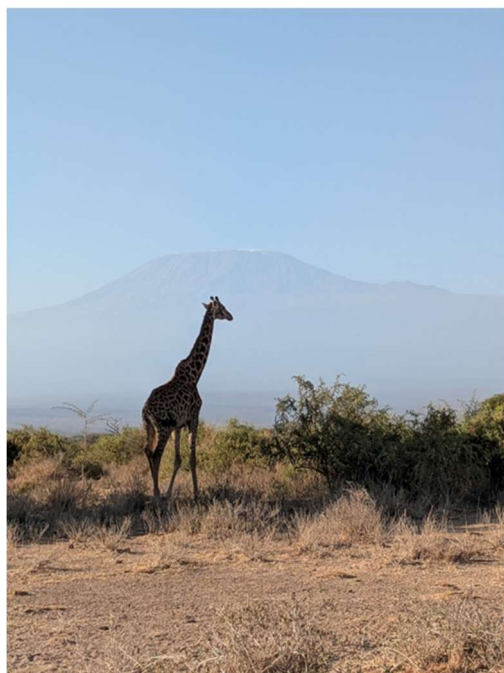
アンボセリー国立公園の象です。



キリマンジャロです。
アンボセリー国立公園の外側にあ
る宿泊したテントロッジから見え
ました。



バオバウの木です。
ケニア唯一の軌道 SGR に乗って、イ
ンド洋に面したケニア港湾都市モン
バサに行く道中で撮りました



キリマンジャロを背景にしたキリン



2時間半の数学のテストを受けている
高校2年生

東京支部 秋の山行「飯能アルプス」

東京支部 S51 年 工学部卒 小林照明

11/8 土曜 一気に晩秋を迎えた関東地方、晴れ時々曇り。東京支部は、秋の山行を初めて埼玉県西部の「飯能アルプス」で実施しました。「飯能アルプス」は300m程度の低山が連なるハイキングコースになっており、4.5時間程度で縦走もでき、奥多摩地域とも異なる風情が楽しめ、熊の出現も少ないことから、今回 小関事務局長と選んでみました。

白髪混じりの元ワングル精鋭 (S48 小田, S48 森本, S51 小林, S53 秋山, S55 小関, S57 長谷雄) 6 名が西武秩父線(池袋線) 武蔵横手駅に集結し、09:55 颯爽と出発しました。

予定全行程 4.5 時間、9km (以下の山行図を参照) のところ、前半の「かまと山」・「久須美山」・「ケルン」を登ったところで後半部の「大黒山」「多峯主山」「天覧山」をスキップと決め、13:30 丘の上公園に下山・昼食を取ったのち、バスにて終点の飯能駅に向かい 15:00 に全行程を終えました。飯能駅では中華「王記」にて、辛いマーボ豆腐とビールで打上げを行い解散となりました。下山後の一杯は最高です。

少しだけ色づき始めた飯能アルプスは、低山のアップダウンが続くなかなか良いハイキングコースでした。



秋の山行「飯能アルプス」行動記録

「毎日1万歩歩いてきた」と張り切って参加したMNさん。安かったと新調したハイキングシューズが滑って前に進めず「足(筋肉)が痛い」と遅れだし、トレイルランニングの人たちが我々の横をさっそうと駆け抜けていくのを「こんなはずじゃない、低山を甘く見ていた」と横目で見ながらつぶやく。これもまた楽しい山行でした。途中、熊よけとして、木の幹をたたきだしたOTさん、負けじと笛を吹くKT、また格別の山行でした。歩きながら皆さんの話題も楽しかった。今回は、何より皆が無事に怪我なく下山できたのが一番の喜びでした。

参加者が6名と少なかったのは、「我々 執行部の案内通知が遅れたこと」、「なじみの薄い埼玉で初の山行だったこと」も要因かもしれません。二人分のリュックを背負ってくれたOJさん、海外登山の話しのHTさん、おしっこ姿は撮らないでのATさん、埼玉県人なのに参加できなかったMSさん。コロナとインフルの予防接種で腕が腫れたと参加できなかったMIさん、これもまた記憶に残る思い出となりました。

今回は、山行候補日として土曜日・日曜日の2日をあらかじめ提示しておき、3～4日前の天気予報にて最適な日取りを決定するやり方へ変更しました。これは良かったのですが、年初に示した東京支部年間スケジュールにて、皆さん、山行日はわかっているものと思い込み、リマインドが遅かったのは反省事項です。

今後は、皆さんの日程の早期確保のためにも、山行日程だけでも、もっと早く何度も案内を発することにしたいと考えています。秋の山行に ご参加いただき、ありがとうございました。



13:15 ケルン到着



13:30 ケルン下 丘の上公園 へ下山・昼食

6人の元ワングル精鋭 (S51 小林, S48 森本, S48 小田, S53 秋山, S57 長谷雄, S55 小関)

81 歳を迎えての雑感

東京支部 S42 年 経済学部卒 吉永 哲也

この度、東京支部より「鳳翔」への投稿を求められ、せっかくなので81歳の記念に、長いようで短いようで、やはり長かった私の雑感を述べたいと思います。振り返れば、ワンダーフォーゲル部入部のきっかけは鳳陽寮北寮での平原さんからの一言。「おい、ワンダーフォーゲル部入らんか？」——この一言で人生の半分以上が山に引っ張られるとは、当時は夢にも思いませんでした。

4年間の合宿は、夏・春・冬とまるで年中行事。体力に自信のなかった私が大きな怪我もなくやってこられたのは、若さと勢いと、先輩方の温かい……いや、時に厳しい指導のおかげです。1年生の永沼先輩、加藤先輩に連れてもらった裏銀座縦走で烏帽子岳の急登をあえぎにあえぎ、テント場からの烏帽子ピストンは“完全に戦意喪失”。あの頃から「無理はしない」という立派な人生訓を早くも身につけた気がします。一方、初めて登頂した槍ヶ岳の感激は今でも鮮明です。2年生では永沼先輩、堺原先輩にしっかりついていき、白馬三山から唐松岳を縦走。唐松の荒天や五竜断念、八方尾根で飲んだ白桃缶シロップのあの甘さ——いずれも青春そのものです。

卒業後は医薬品の営業として、埼玉、群馬、新潟、福井、京都、大阪と旅回り。山よりも得意先の階段を登るほうがメインとなり、山行はほぼ冬眠状態。60歳で定年を迎えたが、関東支店勤務の10年間は内勤だったため、週末は家族と山へ。前橋に住んでいるので谷川岳、尾瀬、赤城山、巻機山、大菩薩嶺など、ほぼ北関東周辺の名山は家族総出でお世話になりました。

特に富士山は一家総出の大イベント。鍋割山で筋力づくり、尾瀬で長時間行動の練習をしていざ本番。須走口から登り、山頂小屋で一泊、御鉢巡りまで楽しみました。須走口の「洗面器一杯100円の水」は、いまだに家族の語り草。二回目は長男も加わりましたが、頂上の大渋滞と強風・霧雨で涙の撤退。登山は人生の縮図、うまくいかないこともあるものです。槍ヶ岳も、夫婦や長女と合わせて合計三度登りました。最長の山行は平成14年の黒部五郎岳・三俣蓮華岳・鷲羽岳・水晶岳・雲の平・高天原周回。薬師岳を断念し、翌月登り直したのは、今となっては良い思い出です。

仕事では、関東支店勤務となった節目に「一念発起」。中小企業診断士に挑戦しました。一次試験は通ったものの、二次試験は何度受けても落ち続け、「もうこれでダメなら諦めよう」と思った平成13年に合格。合格通知が届いたのが大菩薩嶺から帰った日で、「登り疲れた脚に最高のご褒美」になりました。

定年後は尾瀬や鍋割山などの身近な山、そして堺原先輩・末国先輩のルート会にも参加。中小企業診断士としては涉川商工会議所や県の支援機関で相談業務、さらに介護・医療、運送、建設など幅広い分野の経営診断にも携わりました。山の経験が「リスク管理」や「撤退判断力」に役立った気がします（本当に）。

海外旅行も、ローマ・パリを皮切りに、スイス、エジプト、イギリスなどへ。スイスでは月明かりのmatterhornに見とれ、ドイツのクリスマスマーケットでは帰りのダブルブッキングでビジネスクラスに。これこそ「神のサプライズ」。クリスマスにしては出来すぎです。

こうして振り返ると、だらだらと取り留めなく書き連ねたようですが、81歳の今もこうして山に登り、ゴルフをし、診断士の仕事を続けられるのは、ワンダーフォーゲル部で鍛えられた身体と精神あってのこと。毎日のマラソン、鴻ノ峰登り、東鳳翔山訓練、そして同期の仲間たち——そのすべてが私の土台をつくってくれました。

記憶も記録も薄れがちな81歳、誤記や思い違いがあればどうかご容赦いただき、「まあ、歳を重ねた者のご愛嬌」と笑っていただければ幸いです。

9. 自由テーマ

“長老”と呼ばれたワングルOB鳳凰会総会

九州支部 S41 年 文理学部卒 加藤征治

2025・令和7年度のワングルOB鳳凰会総会・懇親会が、山口支部担当で山口萩の景勝地・菊が浜（萩千秋楽）で盛大に開催され、例年の如くかつての仲間達の元気な笑顔が集い語りあった。筆者は旅路少しタイトな日程でしたが、大分より出向き、会期初日の「萩八景遊覧船」と翌日早朝の「萩往還講演」の2つのレクにも参加した。今年度の懐かしい萩での楽しい開催に関して、主催の山口本部・支部執行部、支部会員そして支援頂いた現役部員の皆様方に篤く御礼申し上げます。

参加者 81 名（OB70 名、現役部員 10 名、後 1 名は後述）の名簿の最上段に筆者の名を目にし、会場で“長老”の声を聞くと、先輩諸氏の顔が浮かび、ワングル草創期のこ



とが懐かしく思い出される。そして密かにまだまだ“長老”になりたくないと思うが、年月は流転する天体の動きに沿うものであり、人の心に関わりなく過ぎてゆく。我が山口大ワングルOB会も、2000・平成12年に“新生OB会”として初代会長末国氏（故人）、副会長木山氏を迎えて誕生して以来、2007・平成19年にはOB鳳凰会と改名、その後も歴代の会長・副会長、執行部のご尽力により今日の発展を見るものであり、思えば早や25年経過することになるのである。

同夜の懇親会の宴では、OB・現役のスタンツや懐かしいワングル唱歌などの大合唱もあり、遠来の銘酒“宝鳳”（鳥取/安来市産）に酔い、久しぶりにOB会の越し方・行く末を思う。“新生OB会”が発足した2000年代当時、会の運営に関して、運営経費（資金・会費制）や総会・懇親会の開催などの諸問題の改革に関して並々ならぬ苦労があったかと拝察する。年度のOB総会・懇親会の開催・参加に関しては、全国各地に住む会員の皆が時間的、距離的・経費的な問題なしに公平にOB会に関われるよう支部設立・開催が提案され着々と実施された。これはまさに初代会長・副会長両氏の慧眼であったことに敬意と感謝の思いである。このことは筆者のOB会総会談話記録『仰ぎ見て遙か、顧みて一瞬～WV創立期を振り返る』（2022/10, 由布院OB総会講話、ワングルOB通信掲載）にも記した。詳しくは、初代副会長の木山氏（農学部42年卒）の『たかがOB会、されどOB会～想いを共有する者の集い』（OB通信鳳凰会復刻第1号、2007/12）に、“新生”の経緯、生みの苦しみについて回想されている。

ところでその“新生OB会”の名の由来にも関係することであるが、筆者の卒後数年の期間（昭和 40 年代）のOB活動について少し記憶を呼び起こし記すことにする。たまたま卒後宇部市内に在住するワングルOB同士として同期の深川、土井氏達（工学部 41 卒）と話す機会が重なり、1968・昭和 43 年の初秋に取り合えず学部を越えてオールワングルOBの同窓懇親会の形で、宇部市川島屋に集まることとした（先の筆者の 2022OB通信の文中山口を宇部に訂正）。当初の予想を越えて遠来の参加者も多く、学生時代から変貌した社会人姿ではあるが、またワングルの面影を残した顔々が集い、その集会で取り合えず暫定的に深川氏を会長としてOB会が発足した。社会へ出たの初めての再会でもあり、“懐かしい”の一言で、思えばOB会の原点を見るようで当時の感慨は忘れられない。続いて 1970・昭和 45 年秋に、同じ宇部市にある常盤公園内国民宿舎常磐荘で、現役部員の支援も得て、第 2 回OB懇親会を開催した（「ワングルOB総会の開催履歴及び総会時の集合写真集」（永沼氏編集、2023、12/24、中間報告版）。このような第 1，2 回OB懇親会開催を経てその後のOB会としての会合の変遷に関しては正確な記録が乏しい。ただ先の編集によると、残された記録は必ずしも明確ではないが、少しのブランクの後、1975・昭和 50 年前後頃から本部OBの堺原氏を会長とし“復活OB会”として現役時代にもっぱらコンパなどで部員の誰もが世話になった山口後河原の惣野旅館で、OB会の運営や現役部活動へ支援なども話し合われた。しかし、その後は長い記録不明な空白の年月が続き、明確なのは 1999 年の山口道場門前の太陽堂旅館でのOB懇親会開催を経て、いよいよ翌年の 2000(昭和 12)に馴染みの同会場で、上記の如く“新生OB会”が誕生し、今日のOB鳳翔会の礎が築かれたのである。

さて話は変わり、今回のOB総会の参加者名簿での人数のことであるが、残りの 1 名は可愛い少女（小学生）である。そして、その少女に連れ添って傍に十数年来筆者が逢いたがっていたメッチェン（ワングル風に）が、学生時代の面影を残しながらも、いつの間に逞しい母となって現れたのである。もう少し詳しく申すには、まず「2007OB総会横断幕とキャンプファイヤー」の写真（筆者撮影）を見て頂こう。これは 2007・平成 19 年 /11.10 山口本部・支部担当で山口徳地青少年自然の家で開催された時のものである。当時、整備されたキャンプ施設に集合し、懇親会は夕暮れの中での野外BBQを楽しんだ。久しぶりに再会したOB会員同士が夕食のカレーライスの炊事で、それぞれ火起こし、飯炊き、ジャガイモ/ニンジン皮むきなどで、互いに手元を動かしながら



も懐かしい話に熱中した。メインイベントは木々を組んだ大火のキャンプファイヤーであり、燃え上がる炎を囲んで現役たちのスタンツ(写真、筆者撮)や参加者の大合唱を楽しんだ。炎で照らし出される笑顔はどれもすっかり数年、数十年前の若者にもどっていた。キャンプファイヤーの火が消える頃、それぞれ三々五々ロッジの大広間に引込み、晩秋の虫の声聞きながら同室で大小それぞれの二次会であった。筆者にとっても時代を語る思い出深い盛大なキャンプファイヤーの開催など、当OB会の開催準備に協力していただいた当時の現役部員に改めて感謝である。その時の部の主将・副主将が写真のお二人、西村・清水両君と記憶している。これはもう18年も昔の一つのOB会総会・懇親会であるが、たまたま2007年は私事大学を退任・退職した年で、当時長年の教育・研究の責務からやっと解放されて念願叶ってOB会に参加できたこと、そしてそれ以降毎年のOB会参加と続く、筆者にとって、“再生OB会”のスタートの年として特別印象深いのである。

定年退職、身辺些事リタイヤー後、世間並みに馬齢を重ね、気がついたら世間の“高貴好麗”(誰が呼ぶか後期高齢)になり、ここ数年自動車運転免許の更新での「高齢者認知試験」なども加わっている。幸いまだ認知症は無いが、その認知検査の「覚えている絵図の名をすべて書きなさいという記憶検査」には毎回悩まされている。そして近年は世のコロナ禍や我が疾患(股関節症手術)を乗り越えて、飲む(薬)、打つ(注射)、買う(宝くじ)の人畜無害の平穏な生活である。ただ、話はまたワングルに戻るが、近年参加するOB鳳凰会の懇親会のワングル合唱、これも1つの楽しみで参加しているのであるが、次第に新しい知らない歌も増え、また歌い聞き馴れた懐かしい歌もその歌い方・調子も部分的に変わって馴染まないことも多く、こんなところにも時代の変遷を痛感する。しかし、世間様から“長老”と呼ばれても、筆者のワングルOB会は永遠なのである。それはかつて心身共に脆弱な若者を逞しく育ててくれたあの“我がワンダーフォーゲル”だからである。



昨年、一昨年と孫が高山病になり途中下山した富士山に、今年は筆者一人で登り、山頂、剣ヶ峰 3776m へ登頂した。

2025年8月19日(火) バスに乗り、15:29 富士宮口五合目 2,380m に着。富士山入山手数料 4,000 円を徴収された。16:14、六合目 2,490m に着。18:14 新七合目 2790m・宿泊予約した御来光山荘に到着。



17:04 昨年孫の高山病で登れなかった宝永山



18:14 御来光山荘



18:16 影富士を望む

8月20日(水) 5時前に起床して、山小屋のパンと牛乳様の飲み物などで朝食。山小屋の前で富士山の側面からの御来光を仰いだ。5:30 出発。岩がゴロゴロした道やザクザクした道を上り、7:00、七合目 3030m・山口山荘着。ペットボトルの水を飲んだ後、岩の多いジグザグ道を上り、9:00、八合目 3220m・池田館・富士山衛生センターに着。15分間休憩し、ザラザラした道を上る。上る人、下る人が次々と筆者を追い越して行く。歳のため、早く歩けないので仕方ない。しかし、上る人優先という山歩きの鉄則を知ってか知らずか、無視しているような中国・韓国人らしき者が多いのには閉口。その点、欧米の人は礼儀正しい。また、親に連れられた小学生に何度も出会い、癒された。10:11 には、かつて浅間大社奥宮の鳥居が建ち現在では2本の柱が残っていて、登山者が賽銭箱の代わりに柱に硬貨を刺し込んでいるところを通った。12:05、九合五勺 3550m・胸突山荘に達した。持参のレーズンパンなどで昼食。少し寒くなってきたので、セパレート型の雨着の上着を着て出発。13:50、遂に富士山山頂 3710m・浅間大社奥宮に登頂した。



5:06 御来光



13:52 浅間大社奥宮にて

広大な富士山火口・大内院(最低部 3535m)を見回した。火山灰でさらさら土壌の急登を登り剣ヶ峰へ。14:45、遂に感動の日本最高峰富士山剣ヶ峰 3776m へ到達。旧富士山測候所の建物がある。早速、これまでにない四国八十八か所巡礼のときに着た背中に「南無大師遍照金剛同行二人」と書かれた死を覚悟の白衣を着て、登頂記念写真を撮影した。ちなみに江戸時代に大流行した富士講では、現在の富士宮市にある富士山本宮浅間大社で富士山からの霊水が湧き出す湧玉池で身体を清め、やはり、死を覚悟の白装束になったという。

15:05、剣ヶ峰を後にした。17:10 九合五勺 3550m・胸突山荘着。予約しており宿泊。2食付 13,000 円。夕食は少量のカレー。寝るところは大部屋。

8月21日(木) これから山頂に上り、御来光を迎える人達だろう、あちこちで小声がした。山小屋の前で富士山の側面近くからの御来光を迎えた。5:30 山小屋を出発。段差のあるところでは、膝関節の軟骨摩擦が酷い方の左足をかばい、横歩きになり左足を先に下して進む。6:25、九合目 3400m・万年雪山荘着。転ばないように前かがみになり、蟹のように横歩きになったりしながら、ひたすら下る。天気予報のとおり、晴れ間がなくなり薄曇りとなり、薄霧が漂う中を進む。10:35 七合目 2790m・御来光山荘着。ほどなく、富士宮口五合目に着。



5:13 モルゲンロートに映える富士山頂



8:46 薄霧が漂う中を進む

現在 82 歳、年々衰える体力は遺憾とも致し方無い。富士山登頂は今年が最後かも知れない。だが今後も、ほぼ毎日の公園での自称健康運動を続け、まだまだ元気に過ごしたいものである。

🐻 くまがこわい！ 🐻

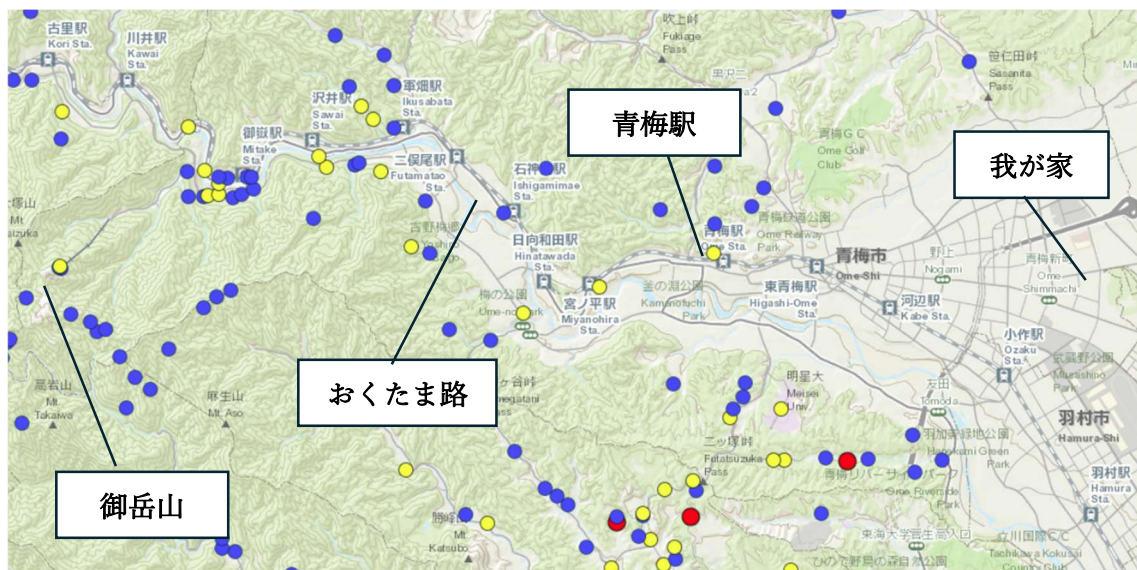
東京支部 S55 年 工学部卒 小関哲哉

最近、各地で熊出没のニュースが毎日のように流れている。以前は「東京にも熊がいますよ！」と話題になることもあったが、それは奥多摩の山間部で年に数件目撃情報があった程度のことであった。ところが 4～5 年前から住宅地に近い所でも目撃情報が増えてきた感じがする。私はこれまで幸いにも熊に出会ったことは無いものの、ほぼ同時期に奥多摩の山中で 2 度ほどニアミスがあった。1 度目は奥多摩でも 1、2 位争うほど人気の「川苔山」に向かう途中の見通しの悪いピークで、休憩中の 3 人組に会った際に「ピーク手前で子熊を見ませんでしたか？」と問われ絶句 😲！ 2 度目は「御岳山」の北西側から登るルートで、稜線に取り付いたところで休憩していると、上からハーモニカを吹きながら降りてくる人に出会った。少し違和感を抱いたので「何事ですか？」と聞いたら、稜線上の岩の上に熊が座っていて、谷の方へ移動したので降りてきたとこと。あと 5～10 分間長く歩いていたら・・・😲？！ 両方のニアミスを知ったあとは、拾った木の枝で岩や立ち木をたたきながら、時折後ろを振り返り、風の音にもびくつきながら、本当に気持ちの悪い山行となった。

今年は、食べ物のどんぐりやブナの実の不作で、また生息数自体も増えてきていることもあって、今までにないほど目撃件数が多いようだ。青梅駅から西側に住んでいる知人は、裏の畑に行くのも怖いので、輸入ものの熊除けスプレーを 2 万円で購入したと嘆いていた。散歩中の住宅地でも熊に出会うかも知れない。早く山に帰って冬眠して欲しいものだ！

添付の図は東京都の「クママップ」から引用したが、昨年の総会会場の「おくたま路」や「御岳山」周辺も目撃情報が相次いでいる。我が家まで 3～4 km に迫ってきている！

<目撃情報 ●：1ヶ月以内 ●：3ヶ月以内 ●：3ヶ月以前（4月～7月）>



「東京都ツキノワグマ目撃等情報マップ ～TOKYO クママップ～」 より引用

山口大学文理・物理専攻同級生の親睦会・青戀の会。今年第3回は筆者が担当となり、我が故郷・尾道で開催した。参加者4名。筆者は広島県御調郡向島西村で生まれ、5歳の時向島東村に引っ越し、高校を卒業するまでを過ごした。風光明媚な尾道は中世の開港以来、港町として栄えた。北側の山と南側の海に挟まれているため、山肌に住宅や神社仏閣が細長く密集しており、日本遺産となっている。また、尾道は両親と一緒に放浪の末たどり着いた林芙美子が、尾道女学校（現尾道東高校）を卒業したことで有名。文学のこみちの千光寺山中腹には、暗夜行路の志賀直哉が一時住んでいた家、アラウギ派歌人の中村憲吉の棲家となった家が現存している。

2025年11月11日（火）まず、青戀の会提案者であるがー昨年、若くして亡くなった平野君の墓に参った後、公営渡船5分間で尾道水道・海を渡り向島へ。丘の上にあるやすらぎの宿しーそーに宿泊。幻想的な尾道の夜景が素晴らしい。



15:07 尾道駅前横の林芙美子の像

23:38 尾道の夜景

11月12日（水）尾道に渡り、ロープウェイで千光寺山へ。山頂の展望台から尾道と向島に架かるしまなみ海道の起点となる尾道大橋や天候の良い日には四国の山並みまで望まれる瀬戸内海の島々などを堪能した。



6:49 宿から眺める尾道の街並みと千光寺山

7:20 窓越しに尾道を眺めながら朝食



9:18 千光寺山展望台から尾道大橋(中央)と尾道市街地、遠方の松永湾を望む

9:21 尾道水道と向島の造船所・町、瀬戸内海の島々を望む



9:22 眼下に尾道の街、遠方に瀬戸内海の島々を望む



9:46 ロープウェイから平安時代の始め806年開基の千光寺を望む

今年も昨年に引き続き10月に工業化学47年卒同期会を開催することになった。昨年の鬼怒川温泉の時に、来年は山口で開催しようとの案が出たが、山口は飽きたので道後温泉にしようとの案が採用された。今年になり場所は決まっていたが幹事を決めていなかった為、日程などがなかなか決まらず、結果的に昨年幹事の私とF君また山口のK君が検討することになった。最初の案では季節の良い秋の10月25、26日が出てきた。“あれっ待てよ”手帳の予定表を見るとワングルOB総会と一緒にではないか。まずい！急ぎ二人にメールした「当日はワングルOB総会と重なったており、私を含めて3人欠席の可能性が高いので変更して欲しい」二人の幹事は私の案を採用してくれて、10月23、24日に変更して頂いた。結果的にその日は木曜日、金曜日であったので、宿泊費用も安価であり、人気のホテルで10数名の予約も取れた。

10月23日

成田空港8:05発にて松山空港9:50着。松山に来るのは2年生時に工業化学科1年先輩・足立さんに連れられて、同期4人と一緒に秋の石鎚山フリーワンの後に道後温泉に浸かって以来だ。先ずは天下の名城・松山城に向かった。リフトに乗り快晴の秋はとても気持ち良く、あっという間に着き、天守閣に向かって歩くが階段もかなりあり年寄にはちょっときついな。天守閣から松山の街を眺め、本丸の広場にてコンビニ弁当にて昼食、その後坂の上の雲ミュージアムへ。司馬遼太郎の小説にちなんで造られた施設であり、松山出身の秋山兄弟と松岡子規の生涯を通して明治の日本を説明してあった。この施設の入り口にて山口のK君とばったり出会い、同期会の事を話したりしながら一緒に見学することになった。その後は二人は別行動となり、私は道後温泉駅前広場の坊ちゃんからくり時計を見に。定時になると時計がせり上がり、小説坊ちゃんの登場人物が現れて面白かった。次に俳句をかじった私としては寄らないわけにはいられない子規記念博物館に。子規の人物、書簡や原稿、友人夏目漱石の事、松山の歴史や文化等も展示されていて興味深く見学した後、道後プリンスホテルへ。

今回の同期会には関東から4名、山口県4名、福岡県2名の計10名の参加者となった。宴会にて久しぶりの再会を祝して食べながら飲みながらの楽しい時間を過ごし、恒例のカラオケ2次会となり、最後の曲は皆で青春時代を歌いお開きとなった。昨年の反省から宴会開始前に、次回幹事と開催場所を相談して、幹事S君、K君となり開催場所候補地は武雄温泉と決まり、幹事役を免れて安心しお酒を十分飲めて楽しい時を過ごせた。



10月24日

朝食後に会計精算、次期幹事に余剰金を渡し、来年の再会を願って同期会解散となった。子規の生家を復元した子規堂に行きたかったが、本日は山口市に夕方までには着きたかったので諦めて、T君と道後温泉駅付近を散策して11:50フェリーにて柳井へと向かった。松山と山口県は距離的には近いが行くのにはちょっと交通の便が悪い。車では高速道路利用して広島県尾道市経由で瀬戸内海を渡り今治市経由となり、フェリー利用では時間と費用が高速道路利用よりかかる。

17時半頃山口駅着、吉田寮で同室だった文理学部M君と久しぶりの再会だ。彼はサングラスを掛けて待っているとの携帯電話SMをくれ、私は旅行スーツケースを持っていると返信。駅構内は人も少なく直ぐに分かった。奥様の運転で改装された瑠璃光寺五重塔へ。

ワングルOB会古谷氏の情報メールにて改装工事状況や新装の写真を見ていたが、やはり現物を見るとライトアップされて素晴らしいかった。ホテルにチェックイン後、彼の推奨する山口ソウルフードの春來軒の「ばりそば」にて夕食となり、再会を祝して乾杯。彼の家にお邪魔してまたまた飲み会となった。私はM君とは卒業以来東京にて一度会ったとの記憶だったが、彼曰く卒業以来との事、彼の方が優秀だったのでそうだろう。半世紀振りの事だ。今まで年賀状のやりとりをしており、そんなに時間が経ったとは思わず、卒業後の人生をかたり合い午前様になる前にホテルへと戻った。 「 夕紅葉五重塔に旧友と 」



10月25日

二日酔い気味ながらも朝湯田温泉を散歩しながら、山頭火の句を見つけた。これは結婚1年後に会社の保養所に行った時に見つけた句碑だ。 “ ちんぽこも おそそも湧いて あふれる湯 家内から「おそそ」は何？と聞かれ、ちんぽこ から想像しなさい ” と言った記憶がある。また中原中也の碑を井上公園にて再会、1年生時コンパの後にこの公園で酔いを醒ましているときに気付いた。M君は、福岡県柳川市出身だったので同郷の北原白秋や中也の話が好きで、山口に来て彼から中也の事を知り、寮の同室で彼から詩をたくさん聞かされた。



“ これが私の古里だ さやかに風の吹いている あゝおまへは何をして来たのだと 吹き来る風が私にいふ ”



湯田温泉をもっと散策したいとの思いを残し、萩へと向かった。



萩では先ず山口支部お勧めの明倫学舎へ、本館から4号館まで有り幕末から明治への貴重な資料が盛沢山展示され、日本近代化を主に見て回った。その中でも幕末ミュージアムでは江戸時代から幕末までの科学技術関係は圧巻であり、特に鉄砲、大砲関係は興味深かった。一部のコーナーにて中国人観光客が写真を撮ろうとして、説明員からアイコンによる撮影禁止を指しながら駄目だと注意されていたが、言うことを聞かない様子だった。私が下手な中国語にて“この場所は撮影禁止ですよ。”と話すとうやうや理解したようで諦めて行ってしまった。説明員の方に謝辞を言われてちょっぴり嬉しい気分となり、博物館へと足を延ばした。ここで私が勤務していた小野田セメントの創業者笠井順八の写真があり驚いた。彼は藩校明倫館出身でありその後井上馨の斡旋で政府から借金して会社創立したとの説明があった。私は小野田工場にて短期間勤務経験があったが、順八翁（小野田社ではそう呼称していた）が明倫館出身とは知らなかった。その日は古谷氏の歴史街道萩往還講演会を聞く予定だったが、途中道に迷ったりして残念ながら間に合わなかった。

総会、懇親会では OB/OG 71名、現役 10名の計 81名の参加者であり大盛況であった。同期も7名が参加しており、久しぶりの話に花が咲き2次会にも出席して旧交を温めた。



10月26日

朝食後、水面から見る萩の風景が新鮮との文に惹かれ萩八景遊覧船に、船頭さんのハーモニカにも癒されてゆったりとした時間を堪能した。帰りはS51工小林氏と一緒に乗り合いタクシーにて山口宇部空港へ向かった。彼と一杯飲んで売店でお土産を探していると“せめんだる”の菓子を見つけた。これは明治時代にセメントは樽で販売していたので、それにちなんで小野田工場近くの菓子店が作っていたのだが、販売中止となっていた。別の会社が新たに販売したばかりであったので早速購入して我が家のお土産とした。宇部15:15発であったが、羽田空港が混んでいるとのアナウンスで40分程度遅れての帰還となり、私の大旅行は終了した。



P S 前回鳳翔に記載した毎日文化センター講座のひとり上妻氏は、なんとS47山口大学文学部卒であり、M君とは社会科学でクラスが一緒の同級生であったとの事。 またまたまたの驚愕である。

後期高齢者となり忘備録として2025年11月24日記す。

先日のOB 総会で猫の話の要望があったので一筆投稿します。ついでに犬の話も。

猫の虐待（2020年2月）

土曜日、仕事を終え午後3時半に帰宅。まず一番にするのが猫のトイレの掃除。出勤前に綺麗にしておいても、帰宅時には全滅状態。ひとつずつ4回、人間様のトイレに運び大や小の排泄物を流す。一段落着いたところで焼酎の水割りを作り一杯やる。ほろ酔いになってきたら、リビングに寝袋を広げ昼寝の準備をする。寝袋は封筒型を2枚つないでダブルサイズにしてあり十分な広さがあり寝返りも楽々できる。寝袋に潜り込み身体の右を下にくの字状態でテレビを見る。早春の午後の太陽が寝袋の上に注ぎ込み暖かい。しばらくすると、長男猫（3歳7ヶ月）が肩口のところに来て寝袋の中を遠慮がちにのぞき込む。寝袋の口を広げてやるとうれしそうに一声泣いて中に入り私のお腹の前で丸くなる。続いて、次男猫（1歳10ヶ月）が寝袋の上で長男猫の横あたりに陣取る。そして、三男猫（10ヶ月）が寝袋の上の私の膝の後ろ、長女猫（10ヶ月）が寝袋の上の背中側に陣取り昼寝の体制に入る。なんたることか私は足が伸ばせない。寝返りが打てない。全く身動きがとれない。猫に金縛りをかけられているようだ。そのままじっとじっとじっと我慢して我慢して寝入るのである。

これが我が家の猫の虐待である。

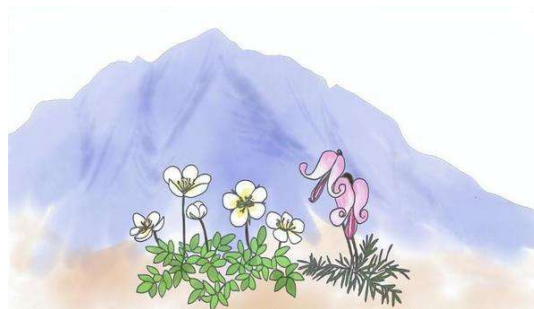
犬の虐待（2023年秋）

我が家に犬がやってきて約2年8ヶ月、3歳になった。体型も猫と同じくらい。4匹の猫もますます元気である。犬は私にべったりで、猫が甘えてくると嫉妬のためか猫にちょっかいを出す。猫はキャットタワーやキャットウォークの上に居たり、別部屋の妻と一緒に寝ていたり、犬とほどよい距離を置いている。犬が一日中私のそばにいつも居るので、猫と一緒に寝ることもほとんど無くなった。ここ数ヶ月前から夕方妻が帰宅すると、突然元気になる様になった。ご飯をもらえる人が帰ってきたからか？。左向きで寝転がってテレビを見ていると、左手をペロペロ始める。仰向けになり左手を右に隠すと、足下を回り込みペロペロ再開。左手を背中の下に隠すと、右手をペロペロ。右手も隠すと、胸の上に登ってくる。胸の上に座り込み口元をのぞき込み、ペロペロ攻撃が始まる。息を止める。我慢できなくなって、口を少し開けるとペロが口の中に入ってくる。一瞬若かりし頃を思い出す。いつまでもやめないのが犬の顔を持ち上げると、諦めたのか身体の向きを変えた。ところが今度は顔の上にお尻がくる。学生時代に歌っていたハトニワトリの歌でかいが、♪犬もクソしてケツ拭かぬ♪。あまり気持ちがいいものではない。息を止めてじっと我慢する。

これが毎日続く、犬の虐待である。

家で飼っている犬や猫に虐待されると、なぜか非常にうれしい。

こんな虐待が、永遠に続くことを願っている私がいる。



再　　び　　車　　窓　　よ　　り

関西支部 S48 年 経済学部卒 上田 功

昨年12月21日（土）、リタイア後に知り合った京阪神在住の山仲間（ジジ4名、ババ3名）で、四国の飯野山（讃岐富士）登山と塩飽諸島・本島散策の小旅行に出かけた折の往路のことだが、丸亀駅現地集合時刻が午後1時と時間的に余裕があったので、気まぐれと言おうか、何となく乗ってみたかったのか、最寄りの垂水駅から丸亀駅まで、普通列車を乗り継ぐ鈍行の旅を選んだ。

この道中の山陽本線／相生～岡山間の車中では、ノスタルジックかつセンチメンタルな思いに駆られた。この区間は、大学入試の行き帰りに、在学中の帰省時や日本アルプス方面への山行時に度々通行していたが、1972（昭和47）年3月の山陽新幹線岡山開業以降は、もっぱら新幹線利用に変わったので、数えてみると実に50年以上振りに西播から備前にかけての沿線の風景に見入っていることに気付いたからだ。途中の上郡とか和気とかの駅名もそう言えば確かに通ったなあ、と遠い記憶もかすかに浮かんできた。普通列車の速度が昔日の若き日々のあれやこれやの記憶を呼び覚ますのに丁度合っていたのかもしれない。そんな相生発10：29／岡山着11：38の短くも懐かしく心地良い時間ではあったが、現実面に引き戻される出来事にも遭遇した。

こちらの普通列車は下り線を走行、何となく対向の上り線に目を向けていた処、このわずか1時間程の間に長大な編成の貨物列車と4回もすれ違ったのだ。2度目のすれ違いで気付き、筆者の習性でもあるがいつしか数えていた。普通列車は1時間に1本でも、同じ時間帯に何十両編成の貨物列車はこの頻度で運行されている。これは正に“我が国の物流の要”ではないかと思いついた。トラックの運転手不足が社会問題化しているが、JR貨物の貨物列車1編成が20～30台分以上のトラックに敵うと言えなくもない。新幹線を利用していたのでは決して見ることはなく分からなかった。都会地の駅のプラットフォームで目の前を通過していく貨物列車を偶々見ただけではこうした貨物列車の運行ダイヤのことは分からない。北は北海道から南は鹿児島まで在来線の線路は繋がっているのも、物流の動脈は全国的に繋がっているのだなあ・・・。

そうした色んな思いを抱きながら、岡山からマリンライナー23号で瀬戸大橋を渡り、坂出で乗り換えて12時37分に丸亀に到着。この日は、飯野山に登頂し、土器川沿いの骨付島“一鶴”で夕食後、丸亀（泊）。翌日は、朝一のフェリーで本島へ。笠島まち並保存地区や勤番所跡等を訪ね歩き、再びフェリーで丸亀に戻って、石垣で有名な丸亀城に“登り”、その後、帰路についた。

尚、復路は、丸亀から特急しおかぜ20号、岡山からは新幹線ひかり518号を利用した。了。



私は、いつの間にか76歳になりました。東京の夏のワングルOB 懇親会（8月23開催）に出席したところ、出席者13名のうち、年齢順では、私は上から3番目グループの位置づけになっていました。これから、さらに活力ある暮らしを目指すためには、付き合う人が信頼できるかどうかを見極めたうえで、同僚や目上の人との交流ばかりではなく、年下の若者とも親交の輪を積極的に広げることが、肝要だと考えるようになりました。

その点、山口大学ワングラーフォーゲル部のメンバーであれば、青年期に切磋琢磨し、自然を愛する良き人柄の仲間なので、安心して付き合えます。

ですので、夏季ワングルOB 懇親会の席上、参加者に積極的に話かけてみました。すると、参加者の内、工学部出身者は7名で54%を占めていました。

私は経済学部出身なので、これまで、工学部の方と話す機会は、ほとんど有りませんでした。今回、親しく接してみると、話が面白く、自分とは物の捉え方が違うのがよくわかり、斬新でした。

一例をあげると、土木科出身の方は、70歳を過ぎているにもかかわらず、これから12月までの4か月間以上、単身で北海道に寝泊まりし、橋造りをすると言気揚々としていました。

また、別の資源工学科出身の方は、地球深部探査船「ちきゅう」による海洋科学掘削や石油資源探査などの事業に取組み、かつ、広報活動として、講演会も積極的に開催しており、活き活きとしていました。

これらの話を聞き、自分と物の捉え方が違うのは、なぜなのか根源を思案してみました。

その主因は、「経済学は、社会科学の探求」であり、[工学部は自然科学の探求]というところにあるのではないかと考えるようになりました。

私は大学卒業後、銀行に就職しました。銀行業務の真髄とは[信用基盤の拡充]にあります。

それを追及するには「対人の折衝業務」が重要になりますが、交渉が首尾よくいくこともあれば、そうでないことも多く、とても疲弊します。

厳しい業務でしたが、無事に、60歳で定年退職しました。その後は、晴耕雨読で気ままに過ごし、精神的に解放されてはいますが、今回のワングルOB 会を通じ、更に関心の輪が広がりました。

今後は、さらに主体的にワングルOB 会に参加し、活力ある暮らしをしていきたいと考えているところです。

以上



10. OBの皆さまへのお願い

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。

会費有効年は、皆さまの宛名書さに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳凰会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2024年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳凰会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長宛てメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内

宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2025年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部鳳凰会

個人会員年会費 2,000円(夫婦会員年会費 3,000円)

※年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

(2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

(3) OB通信・鳳凰会HPへの寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。掲載を希望される場合は、会長宛原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いいたします。鳳凰会HPは随時受付ます。なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長までお寄せ下さい。

(4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長までご連絡願います。

同期世話人の方には同期の方の住所変更の連絡をお願いしています。同期世話人の一部の方でメールが不通となっています。メールアドレスの変更がありましたら同様に会長までご連絡ください。

11. 2025年度 本部・支部役員連絡先

【本部】

・鳳翔会会長

田村 伊正（工・昭和53年卒）
〒758-00525 山口県萩市土原63-3
携帯 090-3177-3876（家電 0838-25-5775）
E-mail tamurako@kyouwagrp.jp

・鳳翔会副会長

三國 彰（工・昭和55年卒）
田原 宏（工・昭和57年卒）

・鳳翔会幹事

田中 秀平（農・昭和47年卒） 石川 忠（教・昭和49年卒）
古谷 眞之助（経・昭和52年卒） 坂田 信一（理・昭和57年卒）
浅野 哲郎（工・昭和61年卒） 齊藤 昌彦（農・昭和60年卒）兼会計担当

・鳳翔会事務局長

貞政 旭飛（人文学部・3回生）
連絡先〒753-0841 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内ワンダーフォーゲル部

・鳳翔会会計監査

平野 展康（経済・昭和59年卒） 日野 耕二（経済・昭和58年卒）

【東京支部】

支部長 小林 照明（工・昭和51年卒）
事務局長 小関 哲哉（工・昭和55年卒）

【関西支部】

支部長 池田 純（工・昭和51年卒）

【山口支部】

支部長 坂田 信一（理・昭和57年卒）
支部幹事 平野 展康（経・昭和59年卒）
支部幹事 川地 翔子（農・平成26年卒）

【九州支部】

名誉支部長 永沼 嗣朗（経・昭和39年卒）
支部長 堀 剛（経・昭和57年卒）
事務局長 天野 雅紀（経・昭和61年卒）

【編集後記】

今回のOB通信「鳳翔」の表紙は、田村会長の会社の福利厚生施設「海の家」です。田村会長から今回のOB総会が始まるまでの前日、当日及び翌日の間、OB会員がくつろぐことができるように無料貸し出しをしていただきました。OB総会前日にはS52年卒の方と現役生がお酒を交わして楽しんだとのこと。OB会員一同大変くつろがしていただきありがとうございました。編集長 田原 宏

